

授業計画(シラバス)

科目名		憲法		指導担当者名		矢戸 幸	
実務経験						実務経験:	
開講時期		後期		対象学科学年		こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法		講義:○		演習:		実習:	
単位数		2単位		週時間数		1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標		・法的な思考ができるようになる。 ・法律の規定を正しく解釈し、理解する。 ・人権感覚や法的倫理感を身につける ・日本国の統治の仕組みについて基本的な事項を理解する。					
評価方法 評価基準		学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。					
使用教材		霜鳥 秋則著 教職・教養のための日本国憲法入門 ジアース教育新社					
授業外学習の方法		授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等			
授業計画 後期	17	憲法の意味		日本国憲法を読む、日本国憲法の歴史			
	18	憲法の変遷と基本原理		国民主権の原理と天皇制、平和主義			
	19	人権編		基本的人権の原理・保障と限界			
	20			法の下での平等			
	21			精神に関する自由権			
	22			身体に関する自由権			
	23			経済に関する自由権			
	24			参政権と国務請求権			
	25			国会			
	26			内閣			
	27			裁判所			
	28			地方自治と財政			
	29	違憲審査制度		違憲審査制度			
	30	憲法改正		憲法改正			
	31	まとめ		授業の総まとめ			
	32						
履修上の留意点 出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は、遠隔授業も併用実施する。							

授業計画(シラバス)

科目名	情報リテラシーと処理技術		指導担当者名	井口 義基
実務経験				実務経験:
開講時期	前期		対象学科学年	こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:
単位数	2単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	・Windowsの基本操作を理解する。 ・インターネットの基本概念を理解し、活用する能力を身に着ける。 ・ワープロソフトを活用し、基本的な文章を作成する能力を身に着ける。 ・表計算ソフトを活用し、表、グラフを作成する能力を身に着ける。 ・プレゼンテーションソフトを活用し、発表資料を作成能力を身に付ける。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	よくわかるMicrosoftWord2021 & MicrosoftExcel2021 & MicrosoftPowerPoint2021 FOM出版			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	PCとは	<Windowsの概要>Windowsの基本的な操作を理解する	
	2	五大装置について	コンピュータの五大装置について学ぶ	
	3	電子メール	メールの設定、送受信、署名について学ぶ	
	4	Word(文書作成)の基本で学ぶ	IME、文字の入力、削除等について学ぶ	
	5	Excel(表計算ソフト)の基本	入力の仕方、関数、仕組み、機能について学ぶ	
	6	情報セキュリティⅠ	情報機器の利便性と危険性、対応方法について学ぶ	
	7	情報セキュリティⅡ	保管方法、機密保護について学ぶ	
	8	スマホ決済の不正利用について	スマホ決済の不正利用について事例をあげ説明	
	9		発生時期について	
	10		被害を受けたサービス事業者	
	11		被害の概要	
	12		不正利用の手口	
	13		不正利用の防止方法について	
	14		被害発見方法について	
	15		被害を受けた場合の対応について	
	16			
履修上の留意点				
出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	キャリアプランⅠ		指導担当者名	原 澄江	
実務経験	幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事			実務経験:	有
開講時期	通年		対象学科学年	こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	2単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	・保育者としての立ち居振る舞い、資質を磨く。 ・社会人としての立ち居振る舞い、資質を磨く。				
評価方法 評価基準	出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	資料配布				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション	自己紹介・親睦を深める		
	2	保育者とは	保育者としての心構え		
	3		保育者の身だしなみ・服装など		
	4		保育者として成長するために		
	5		コミュニケーション能力を磨くために		
	6		コミュニケーション技法を使った実践		
	7	保育者として	保護者対応とは		
	8		電話対応の仕方と実践		
	9		病気やケガや事故の対応		
	10		礼状の書き方		
	11	ビジネスマナー	席次など		
	12		SNS・Facebook・LINE・twitterについて		
	13	社会人として	社会人としての一般常識の理解、心得		
	14	実践実技	社会人としてのおもてなし		
	15	保育者として	安定した心の保ち方		
	16				
履修上の留意点					
出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション論Ⅰ		指導担当者名	添田 美華	
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事			実務経験:	有
開講時期	通年		対象学科学年	こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	2単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	・話すことの重要性、自分の考えを正しく伝えることの大切さを再認識し、様々なシーンでの話し方を習得する。 ・「聞く」ことがコミュニケーションにおいて果たす役割を理解し、傾聴・受容する姿勢を身につける。				
評価方法 評価基準	出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	配布資料				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	コミュニケーション	出会い・第一印象・自分の良いところ探し		
	2		コミュニケーションの基本を知る・グループでコミュニケーションをとろう		
	3	コミュニケーションの基本を身につけよう	コミュニケーションと話し上手・挨拶		
	4		正しい言葉遣いと敬語		
	5	話すときの心構えを理解しよう	聞き手を意識した心構え、話題の広げ方		
	6	効果的な話し方を身につけよう	効果的に話すとは 話の構成		
	7	実践	子ども達とコミュニケーションをとってみよう		
	8		子ども達とコミュニケーションをとってみよう		
	9	効果的な表現力を身につけよう	目線・アイコンタクト		
	10		表現力を高めるジェスチャー		
	11	実践	子ども達とコミュニケーションをとってみよう		
	12		子ども達とコミュニケーションをとってみよう		
	13	聞くことの重要性	聴き上手になる話しの聴き方		
	14		話しを促進する聴く技術		
	15	実践	コミュニケーション技法を使った実践		
	16				
履修上の留意点					
出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名		英語コミュニケーション		指導担当者名		大澤 秋津	
実務経験						実務経験： 無	
開講時期		前期		対象学科学年		こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法		講義：○		演習：○		実習： 実技：	
単位数		2単位		週時間数		1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標		簡単な英語で保育園での保育、保護者対応ができることを目標とする 基本的な英文法を身につける 保育に関する単語や語句を身につける 国際化社会に移行し、保育園の中でも多くの文化がひろがるということを理解できる					
評価方法 評価基準		学期末試験の実施での評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況、授業態度などを点数配分し、100点満点で評価する。 期末試験は筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。					
使用教材		英語コミュニケーション (豊岡短期大学発行 能勢規子著)					
授業外学習の方法		授業内容の復習。(毎回10問ほどの復習問題を宿題として出し、評価の対象とする)					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等			
授 業 計 画 前 期	1	保育の英語(入園準備)・英文法		自己紹介・授業の内容と課題について・英文法演習(be動詞と一般動詞)			
	2	保育の英語(登園・降園)・英文法・翻訳①		英文法演習(否定文と疑問文)・翻訳①			
	3	保育の英語(室内遊び)・英文法・翻訳②		英文法演習(単数形と複数形、代名詞)・翻訳②			
	4	保育の英語(外遊び)・英文法・翻訳③		英文演習(形容詞と副詞)・翻訳③			
	5	保育の英語(病気・ケガ)・英文法・翻訳④		英文演習(疑問詞)・翻訳④			
	6	保育の英語(運動・お散歩)・英文法・翻訳⑤		英文法(命令文・感嘆文)・翻訳⑤			
	7	保育の英語(食事)・英文法・翻訳⑥		英文法演習(助動詞)・翻訳⑥			
	8	保育の英語(着替え・トイレ)・英文法・翻訳⑦		英文法演習(未来形)・翻訳⑦			
	9	保育の英語(工作・お絵かき)・英文法・翻訳⑧		英文法演習(不定詞)・翻訳⑧			
	10	保育の英語(育児用品)・英文法・翻訳⑨		英文法演習(現在完了形)・翻訳⑨			
	11	保育の英語(行事)・英文法・翻訳⑩		英文法演習(受動態)・翻訳⑩			
	12	保育の英語(連絡帳)・英文法・翻訳⑪		英文法演習(関係代名詞)・翻訳⑪			
	13	レポート対策		レポートのポイントと演習			
	14	試験対策		文法演習			
	15	試験対策		翻訳演習			
	16						
履修上の留意点							
出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。							

授業計画(シラバス)

科目名		健康科学		指導担当者名		根本真紀	
実務経験		スポーツジムにて子どもたちにスイミングや体操教室での指導				実務経験：有	
開講時期		前期		対象学科学年		こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法		講義：○		演習：		実習：	
単位数		1単位		週時間数		1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標		・自己の体力増進や健康管理ができる。 ・指導者として自己や周囲の人への運動処方が考えられるようになる。 ・救命救急措置や熱中症などの知識を深め、その対策や指導力身につける。 ・生涯における健康な生活設計への自己の認識を確率し実践できるようになる。					
評価方法 評価基準		学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。					
使用教材		資料配布					
授業外学習の方法		授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等			
授業計画 前期	1	オリエンテーション		健康科学とは			
	2	現代社会における体育教育		教育と体育・体育の立場から見た人間の発達			
	3	現代社会と健康		わが国の健康と社会			
	4	運動の生理		呼吸・循環・筋肉・神経・内分泌			
	5	運動の基礎理論		体力の概念・トレーニング理論・ウォーミングアップとクーリングダウン			
	6	生活と運動		現代生活と運動不足・生活習慣病・ダイエット			
	7	運動処方		メディカルチェック			
	8	健康な生活の設計		薬物・アルコール・たばこと健康・ストレス・青少年の性とエイズ			
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
	16						
履修上の留意点							
出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。							

授業計画(シラバス)

科目名		スポーツ実技		指導担当者名		根本真紀		
実務経験		スポーツジムにて子どもたちにスイミングや体操教室での指導					実務経験:	有
開講時期		後期		対象学科学年		こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース		
授業方法		講義:		演習:		実習:		実技:○
単位数		1単位		週時間数		1コマ(90分/コマ)		
学習到達目標		・バレーボール・バドミントン・バスケットボールを仲間とともに楽しみ、技術的に上達し、ルールを理解し審判ができるようになるとともに試合運営ができるようにする。 ・こどもの運動遊びの指導ができるようにする。						
評価方法 評価基準		学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。						
使用教材		資料配布						
授業外学習の方法		授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等			
授業計画 後期	17	オリエンテーション			スポーツ実技の受講心構えとスポーツ競技運営について学ぶ			
	18	準備運動・ストレッチ			準備運動やストレッチの仕方をを学び実践する			
	19	バスケットボール			ルールの説明、基礎技能			
	20				グループ練習・試合			
	21	バレーボール			ルールの説明、基礎技能			
	22				グループ練習・試合			
	23	卓球			ルールの説明、基礎技能			
	24				グループ練習・試合			
	25	バドミントン			ルールの説明、基礎技能			
	26				グループ練習・試合			
	27	幼児体育			こどもの運動遊び 体操			
	28				こどもの運動遊び 体ひとつで楽しくあそぼう			
	29				こどもの運動遊び 身近なもので楽しくあそぼう			
	30				こどもの運動遊び 運動遊具で楽しくあそぼう			
	31	まとめ			まとめ			
	32							
履修上の留意点 出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。								

授業計画(シラバス)

科目名		保育原理		指導担当者名		鴻巣あすか		
実務経験		児童福祉施設で保育士として従事					実務経験:	有
開講時期		前期		対象学科学年		こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース		
授業方法		講義:○		演習:		実習:		実技:
単位数		2単位		週時間数		1コマ(90分／コマ)		
学習到達目標		・保育の意義及び目的について理解する。 ・保育所保育指針の保育の基本について理解する。 ・わが国における保育に関する法令及び制度を理解する。 ・保育所の歴史的変遷について理解する。 ・保育現状と課題のついて考察する。						
評価方法 評価基準		学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。						
使用教材		みらい つながる保育原理						
授業外学習の方法		授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等			
授 業 計 画 前 期	1	オリエンテーション			講義の概要と趣旨 保育原理とは			
	2	第1章 保育の原理 保育の根っこにあるもの			保育の理念と概念			
	3	第2章子 どもの育ち子どもとは、発達とは			発達の原理			
	4	第3章 保育の行われている場所 保育施設をめぐる仕組み			主な施設の種類―施設型保育			
	5	第4章 保育の基本 保育所保育指針をもとに			保育所保育指針の制度的位置づけ			
	6	第5章 乳児のねらいと内容と方法 乳児と1.2歳児			3歳未満児の保育をめぐる現状			
	7	第6章 保育のねらいと内容と方法 3歳以上児			3歳以上児の保育をめぐる状況			
	8	第7章 乳幼児の終わりまでに育てて欲しい姿 小学校との接続			子どもの発達と学びの連続性			
	9	第8章保育の計画 教育課程・全体的な計画とカリキュラム・マネジメント			保育における計画とは			
	10	第9章 保育の専門家への道 これからの保育者論			保育者に求められる専門性			
	11	第10章 子育て支援 保護者と地域とのコミュニケーション			子育てをめぐる家庭と社会の状況			
	12	第11章 海外の保育思想と歴史			海外の保育思想都歴史を学ぶ意義			
	13	第12章 日本の保育思想と歴史			古代から昭和までの保育			
	14	第13章 保育の現状と課題			世界と日本の保育の現状と課題			
	15	まとめ			総復習			
	16							
履修上の留意点 出席率が2／3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。								

授業計画(シラバス)

科目名	教育原理		指導担当者名	原 澄江
実務経験	幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事			実務経験： 有
開講時期	前期		対象学科学年	こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	・教育の意義、目的及び児童福祉等との関りについての理解 ・教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論についての理解 ・教育の制度についての理解 ・教育実践のさまざまな取り組みについての理解 ・生涯学習社会における教育の現状と課題についての理解			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率2/3以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	シリーズ知のゆりかご いまがわかる教育原理			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	教育の意義	保育者になるための教育と学び 教育とは何か	
	2	教育の目的	教育の目的の歴史 法律から見る教育の目的	
	3	教育と福祉のつながり	教育と福祉の関係 福祉職としての保育 子育て支援と少子化対策	
	4	人間形成と家庭・地域・社会	「家庭と連携すること」ということ 「地域・社会と連携すること」ということ	
	5	教育制度の基礎	西洋の教育制度 日本の教育制度	
	6	さまざまな国の教育思想家たち	コメニウス ルソー ペスタロッチ フレーベル モンテッソーリの教育について	
	7	日本の教育思想と歴史	近代以前の日本の教育 日本の近代教育制度の確立期 教育の民営化	
	8	近代教育成立の歴史	公教育の3つの原則 近代公教育制度の確立	
	9	子ども観と教育観の変遷	子ども観、教育観とは何か	
	10	教育行政および学校経営の基礎	教育行政の基盤にある法的枠組み	
	11	保育・教育実践の基礎理論	保育・幼児教育の内容 保育形態	
	12	教育実践の基礎多様な取り組み	新しい時代の教育 多様な教育実践	
	13	生涯学習社会と教育	生涯学習の取り組み	
	14	現代の教育課題	教育における多様性	
	15	まとめ	教育原理について振り返り	
	履修上の留意点 出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名		こども家庭福祉		指導担当者名		添田 美華		
実務経験		児童福祉施設で保育士として従事					実務経験:	有
開講時期		後期		対象学科学年		こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース		
授業方法		講義:○		演習:		実習:		実技:
単位数		2単位		週時間数		1コマ(90分/コマ)		
学習到達目標		・子ども家庭福祉の歴史的展開と現在を理解する。 ・子どもの権利について理解する。 ・児童家庭福祉の基本的な法律と制度を理解する。 ・子ども家庭福祉の様々な取り組みを理解し、子ども家庭福祉に関わる保育士、専門職としての職務・役割を理解する。						
評価方法 評価基準		学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。						
使用教材		中央法規 基本保育シリーズ 児童家庭福祉						
授業外学習の方法		授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等			
授業計画 後期	17	こども家庭福祉の理念と概念			1.児童家庭福祉の学び方、理解するための方法、基本構造 2.児童という対象の特徴			
	18	歴史的変換と諸外国の動向			1.児童家庭福祉の歴史的展開 2.社会的支援 3.新たな貧困への対応			
	19	こどもの人権擁護と児童家庭福祉			1.児童の人権擁護の歴史、権利に関する条約 2.保育の専門職と倫理			
	20	児童家庭福祉の制度と実施体制			1.児童家庭福祉の法制度 2.児童家庭福祉の実施体制			
	21	施設と専門職			1.児童福祉施設の種類、設置・運営 2.専門職 3.入所のしくみ			
	22	少子化と地域子育て支援			1.少子高齢化社会 2.地域子ども・子育て支援事業 3.子育て支援の課題			
	23	母子保健と児童の健全育成			1.母子保健の意義 2.児童健全育成の意義 3.サービスの動向・課題			
	24	多様な保育ニーズへの対応			1.保育ニーズに対応するためのしくみ 2.教育施設・保育施設 3.障害児支援			
	25	児童虐待防止・ドメスティックバイオレンス			1.児童虐待の定義 2.防止と支援			
	26	貧困家庭、外国籍のこどもと家庭への対応			1.子育て世代の貧困 2.子どもの貧困対策とひとり親家庭への支援			
	27	社会的養護			1.社会的養護とは 2.社会的養護の施設等			
	28	障害のあるこどもへの対応			1.障害児の福祉 2.障害児支援の背景 3.障害児支援とポイント			
	29	少年非行等への対応			1.少年非行の状況 2.児童自立支援施設・少年院			
	30	次世代育成支援と児童家庭福祉の推進			1.次世代育成支援としての児童家庭福祉 2.認定こども園と「幼保連携」という考え方			
	31	地域における連携とネットワーク			1.「連携」の必要性和と目的と場面 2.ネットワークとは			
	32							
履修上の留意点								
出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。								

授業計画(シラバス)

科目名		社会福祉		指導担当者名		添田 美華		
実務経験		児童福祉施設で保育士として従事					実務経験:	有
開講時期		前期		対象学科学年		こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース		
授業方法		講義:○		演習:		実習:		実技:
単位数		2単位		週時間数		1コマ(90分/コマ)		
学習到達目標		・現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び、社会福の制度や体系について理解する。 ・社会福祉と児童福祉、子どもの人権や家族支援との関係について理解する。 ・社会福祉における相談援助の意義や方法を理解する。 ・社会福祉における利用者や社会福祉の紺人的動向について理解する。						
評価方法 評価基準		学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。						
使用教材		新基本保育シリーズ4 社会福祉						
授業外学習の方法		授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等			
授業計画 後期	17	社会福祉の理念と歴史の変換			1.社会福祉の概念と理念 2.歴史的変換と現代的課題			
	18	こども家庭福祉と社会福祉			1.社会福祉の専門職としての保育士 2.家庭支援と支援活動			
	19	社会福祉の制度と法体系			1.法律と制度、活用			
	20	行財政と実施機関			1.社会福祉行政と福祉事務所 2.福祉の財政と社会福祉施設			
	21	社会福祉の専門職			1.専門職の構造 2.社会福祉に関する資格			
	22	社会保障および関連制度			1.社会保障制度 2.分野別保障と役割			
	23	福祉六法			1.福祉六法と仕組み			
	24	相談援助の理論、意義			1.相談援助の体系化 2.特徴、原則、意義と機能			
	25	相談援助の対象と過程			1.保育における相談援助			
	26	相談援助の方法と技術			1.相談援助の体系化方法・技術への理解の必要性 2.援助技法			
	27	社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み			1.権利擁護 2.情報提供と情報公開			
	28	少子高齢化社会における子育て支援			1.少子高齢化の現状と課題			
	29	共生社会の実現と障害者施策			1.障害の捉え方 2.インクルージョンの理念			
	30	在宅福祉・地域福祉の推進			1.地域福祉の理念 2.保育所における子育て支援の機能と特性			
	31	諸外国の社会福祉動向			1.社会福祉と福祉国家 2.諸外国の歴史と動向			
	32							
履修上の留意点								
出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。								

授業計画(シラバス)

科目名		社会的養護Ⅰ		指導担当者名		添田 美華	
実務経験		児童福祉施設で保育士として従事				実務経験： 有	
開講時期		後期		対象学科学年		こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法		講義：○		演習：		実習：	
実技：							
単位数		2単位		週時間数		1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標		・養護問題の発生と現代家庭の現状を理解する。 ・児童福祉施設の役割と援助の実際を理解する。 ・社会的養護の原理と原則を理解する。 ・児童福祉施設で働く保育士としての役割や技術を学ぶ。					
評価方法 評価基準		学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。					
使用教材		みらい×子どもの福祉 ブックス 社会的養護Ⅰ					
授業外学習の方法		授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等			
授業計画 後期	17	社会的養護の基本原則とその現状		1.社会的養護とは何か 2.基本理念と原理、現状			
	18	社会的養護の歴史		1.社会的養護の歩み(日本)			
	19			2.社会的養護の歩み(外国)			
	20	子どもの権利擁護		1.こどもの権利、取り組み			
	21	社会的養護の体系と実践		1.社会的養護に関わる法律 2.施設養護と家庭養護			
	22	社会的養護の領域		1.乳児院 2.母子生活支援施設			
	23			3.児童養護施設			
	24			4.児童心理治療施設 5.自立援助ホーム			
	25			6.里親 7.ファミリーホーム			
	26			8.障害児入所施設 9.児童発達支援センター			
	27	社会的養護に関わる専門職・専門機関と倫理		1.社会的養護に関わる専門職			
	28			2.専門機関と連携			
	29	社会的養護とソーシャルワーク		1.ソーシャルワークの必要性			
	30			2.ケースワークとグループワーク			
	31	施設の運営管理		1.施設運営			
	32						
履修上の留意点							
出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。							

授業計画(シラバス)

科目名	保育者論		指導担当者名	鴻巣あすか
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事			実務経験：有
開講時期	前期		対象学科学年	こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	2単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	・保育者の制度的位置づけを理解し、専門性について考え理解する。 ・今日的課題としての諸問題について考慮し理解する。 ・保育者の専門職成長について理解する。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	みらい 子どものかたわらに			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	保育者とは、保育者論とは何か	
	2	第1章 保育の日常と保育者になるための学び	保育者の一日	
	3	第2章 保育職とは	魅力的な保育者とは	
	4	第3章 現代の保育にまつわる問題	少子化・待機児童の問題	
	5	第4章 保育者の役割を考える	保育者の仕事・職務内容	
	6	第5章 専門家として子どもと関わる	子どもの遊びと育ち	
	7	第6章 保育のプロセスと質の向上	保育の計画と必要性	
	8	第7章 行事の意義と役割	なぜ 行事 は必要なのか	
	9	第8章 保護者や家庭との連携	子どものより良い育ちの為に	
	10	第9章 関連機関や地域との連携	幼稚園、保育所と小学校の連携	
	11	第10章 失敗から学んでいく	ベテランと新人の違いは	
	12	第11章 保育者のライフデザインを考える	保育者の就業状況	
	13	第12章 これからの保育のために	先達の保育の実践から学ぶ	
	14	保育者になるために	事例から学ぶ、考える	
	15	まとめ	総復習	
	16			
履修上の留意点				
出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名		保育の心理学		指導担当者名		富森 崇		
実務経験		学校でのカウンセリングや発達障害のこどもたちの支援に従事					実務経験:	有
開講時期		前期		対象学科学年		こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース		
授業方法		講義:○		演習:		実習:		実技:
単位数		2単位		週時間数		1コマ(90分/コマ)		
学習到達目標		・保育実践に関わる子どもの発達の理解ならびに心理学の知識を習得し説明することが出来る。 ・心理学的知識・理論・味方・考え方を学び、それらを基礎とした子供理解や人間発達に関する理解を深めることができる。						
評価方法 評価基準		学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。						
使用教材		みらい シリーズ知野ゆりかご 『保育の心理学』						
授業外学習の方法		授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等			
授 業 計 画 前 期	1	子どもの発達			子どもの発達の理解と意義 子どもの発達と環境			
	2	子ども親と保育親の変遷			初期体験と生涯発達 子ども親と保育親の変遷			
	3	社会情動的発達①			自己の発達 第一次反抗期			
	4				情動の発達 情動調整の発達			
	5	身体機能と運動の発達			身体的機能の発達 運動機能の発達			
	6	認知の発達			ピアジェの発達理論・心の理論・学習理論			
	7	言葉の発達			言葉の発達とコミュニケーション			
	8	子どもの臨床的問題①			臨床的問題に必要な配慮 障害が明らかになる過程			
	9				子どもの発達理解の方法 障害の特徴と対応			
	10	乳幼児期の学びに関わる理論①			愛着とは 愛着の発達と援助			
	11	乳幼児期の学びに関わる理論 2 遊び			遊びと学び 仲間関係の発達遊びが育む心の発達 ①社会性			
	12				遊びが育む心の発達②道徳性 遊びが育む心の発達③想像力			
	13	乳幼児期の学びの過程と特性			乳幼児期の学びの過程 乳幼児期の学びの特性			
	14	乳幼児期の学びを支える保育			養護と教育が一体的に展開する保育 学びの芽生えを育むために			
	15				保護者への支援			
	16							
履修上の留意点								
出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。								

授業計画(シラバス)

科目名	こども家庭支援の心理学		指導担当者名	添田 美華
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事			実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	1.生涯発達から支援を考える。 2.家族理解から支援を考える。 3.多様な家族への支援を考える。 4.子どものころへの支援を考える。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	萌分書林 スギ先生と考える子ども家庭支援の心理学			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	生涯発達とは何か	・乳幼児期の発達	
	2		・児童期の発達	
	3		・青年期の発達	
	4		・青年期・高齢期の発達	
	5	家族関係から支援を考える	・家族・家庭の意義と機能	
	6		・親子関係・家族関係の理解	
	7		・子育てを取り巻く社会的状況	
	8		・ライフコースと仕事・子育て	
	9	多様な家庭への支援を考える	・多様な家族の現状	
	10		・配慮を要する家庭①～保護者の疾患や障害～	
	11		・配慮を要する家庭②～虐待～	
	12	子どものころへの支援を考える	・子どものストレス	
	13		・睡眠、食事、排泄にかかわる症状	
	14		・子どもにみられるその他の症状	
	15		・発達障害	
	16			
履修上の留意点				
出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	こどもの理解と援助		指導担当者名	富森 崇	
実務経験	学校でのカウンセリングや発達障害のこどもたちの支援に従事			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	2単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	・保育実践において、実際に応じたこども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 ・子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考えを理解する。 ・子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 ・子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	光生館　こどもの理解と援助				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	子どもの発達の把握と専門性	・生きる力の基礎と多様な経験		
	18		・子ども理解における発達の把握		
	19		・保育の観察と記録		
	20		・保育を振り返る		
	21	子どもを理解する視点と保育実践	・保育者と子どもとの関わり		
	22		・子どもの仲間遊び		
	23		・自己主張と自己抑制		
	24	保育における発達援助	・基本的生活習慣の獲得と主体性		
	25		・発達課題に応じた援助と協働		
	26		・発達と学びの連続性と就学支援		
	27	現代社会における子どもの発達と保育の問題	・乳幼児を持つ家族の現状		
	28		・子どもの発達に影響する要因		
	29		・幼稚園、保育園における子育て支援		
	30		・親子を支えるカウンセリング		
	31	まとめ	・育ち、学びをとらえて支える		
	32				
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	こどもの保健		指導担当者名	園谷 厚子	
実務経験	児童福祉施設で保育士や総合病院小児病棟で医療保育専門士としての従事			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	2単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	子どもの身体の発育や生理機能・運動機能・精神機能の発達と保健について理解する。 ・子どもの健康状態の把握とわかりやすい病気の特徴を理解する。 ・保育における環境整備・安全管理・衛生管理について理解する。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	中央法規 基本シリーズ『子どもの保健』『保育所保育指針』 ※資料を配布				
授業外学習の方法	授業内容の復習、課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション 生命の保持と情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的	保健活動から見た生命の保持と情緒の安定 養護と教育を一体的に行う 他		
	2	健康の概念と健康指標	健康の概念とヘルスプロモーション 健康指標 他		
	3	現代社会における子どもの健康に関する現状と母子保健施策	現代社会と子どもの健康 母子保健法 他		
	4	地域における保健活動と子ども虐待防止	保健行政施策の体系と地域保健 児童虐待とは		
	5	身体発育及び運動機能の発達と保健	身体発育の過程 臓器の発育様式		
	6	生理機能の発達と保健	呼吸器系 循環器系 消化器系 腎・泌尿器系		
	7	発育発達の把握と健康診断	園における発育発達のしかた 保育士による発育・発達の把握		
	8	保護者との情報共有	気づきについて 気づきを整理する		
	9	主な疾病の特徴①新生児の病気、先天性の病気	新生児の病気 新生児の理解 他		
	10	主な疾病の特徴②	循環器、呼吸器、呼吸器、血液、消化器の病気		
	11	主な疾病の特徴③	免疫 腎・泌尿器 内分泌		
	12	主な病気の特徴④	神経中枢の病気 運動器の病気 皮膚の病気 目・耳の病気		
	13	主な疾病の特徴⑤	感染症理解の基本 感染症法と学校感染症		
	14	子どもの疾病の予防と適切な対応	定期健康診断 日々の健康観察 感染症の予防		
	15	まとめ	振り返り		
履修上の留意点					
出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名		保育の計画と評価		指導担当者名		原 澄江	
実務経験		幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事				実務経験:	有
開講時期		後期		対象学科学年		こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法		講義:○		演習:		実習:	
単位数		2単位		週時間数		1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標		保育におけるカリキュラムの概念、とらえ方を歴史的、理論的に学習しながら、保育カリキュラムの編成の意義、内容、方法について理解することを目的とする。具体的には、「保育所保育指針」の理解、保育(教育)課程と指導計画など多様な保育の計画の種類と内容などの学習をすすめる。その上で、保育カリキュラム編成の基本を理解する。					
評価方法 評価基準		学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。					
使用教材		みらい 教育・保育カリキュラム論					
授業外学習の方法		授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等			
授業計画 後期	17	カリキュラムとは		・保育者になるために			
	18	教育・保育に大切なこと		・教育とは・保育のしくみ			
	19	教育の歴史を考える		・日本と世界の教育の変遷の違い			
	20	よりよいカリキュラムを構想する為に		・カリキュラム構想と保育改善 ・保育の方法と技術			
	21	保育所保育指針をもとに考える		・保育所保育指針などのポイントと共通点			
	22	教育課程・全体的な計画の編成・作成		・教育課程・全体的な計画の必要性 ・構成要素、作成の基本			
	23	指導計画の書き方作成		・指導計画の必要性、生活の連動制			
	24	指導計画の作成のポイント		・指導計画を作成上の留意事項			
	25			・年齢別配慮事項			
	26	カリキュラム・マネジメントと保育の評価		・保育の記録及び省察 ・自己評価			
	27	計画の実際		・保育所(0-3歳)の指導計画			
	28			・幼稚園(3-6歳)の指導計画			
	29			・認定こども園の指導計画			
	30			・異年齢保育の指導計画			
	31	まとめ		・保育者になるために			
	32						
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。							

授業計画(シラバス)

科目名		保育内容総論		指導担当者名		園谷 厚子	
実務経験		児童福祉施設で保育士や総合病院小児病棟で医療保育専門士としての従事				実務経験:	有
開講時期		前期		対象学科学年		こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法		講義:		演習:○		実習:	
単位数		1単位		週時間数		1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標		1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」と「ほいくのないよう」の関連を理解する。 2. 保育所保育士氏の各省のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等をふまえ、保育の内容の基本的な考え方を子どもの発達や実態に即した具体的な保きの家庭(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解する。 4. 保育の多様な展開について具体的に理解する。					
評価方法 評価基準		学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。					
使用教材		豊岡短期大学「保育内容総論」 保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領					
授業外学習の方法		授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等			
授業計画 後期	17	オリエンテーション 保育内容総論とは		授業内容と評価方法その他 はぐくみたい資質。能力と幼児期の終わりまでに育って欲しい姿			
	18	保育内容の歴史の変遷		平成の保育内容の変遷と今後の課題			
	19	改訂された幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容の捉え方		幼稚園教育要領とは 保育所保育指針とは 幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
	20	乳幼児にふさわしい生活と保育内容		乳幼児にとっての園教諭の意味とあり方			
	21	生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開		遊びによる総合的な保育			
	22	全体的な計画の作成と指導計画の作成		全体的計画の作成・指導計画の作成			
	23	保育の評価と保育の記録		子どもの理科気に基づく評価			
	24	保育内容の現代的課題 まとめ		子育て支援 特別な配慮を必要とする子どもの保育			
	25						
	26						
	27						
	28						
	29						
	30						
	31						
	32						
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。							

授業計画(シラバス)

科目名	こどもの指導法「人間関係」		指導担当者名	國分千恵	
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	1単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	・領域「人間関係」のねらいと内容を理解する ・乳幼児期の人間関係の発達について理解する ・保育現場における「人間関係」の指導のあり方の理解				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率2/3以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	領域「人間関係」	ねらいと内容の考え方 取扱いについて		
	2	人間関係を取り巻く社会環境	少子高齢化 家族の変化		
	3		身近な環境の変容 メディアの変化		
	4	人間関係をつむぐ子どもの発達	規範意識と道徳の芽生え		
	5		子どもの自立心の育ち 協働性の芽生え		
	6	人間関係と子どもの遊び	遊びの中で育つ乳幼児の人間関係		
	7	人間関係と子どもの生活	家庭と地域とのかかわりと子どもの発達		
	8	今日的な人間関係の課題	多様な文化の子ども 気に留めたい子ども		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
履修上の留意点 出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	こどもの指導法「言葉」		指導担当者名	原澄江	
実務経験	幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	1単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	1.言葉の発達を理解する 2.言葉の発達を促す条件や環境について自ら考える力を身につける 3.言葉の保育についての基礎的な知識を身につける				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	保育所保育指針解説書 配布資料				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	領域「言葉」	幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育の基本、しくみ、言葉の領域		
	2	こどもの言葉の発達	乳幼児の言葉の発達		
	3	言葉を豊かに育む活動①	言葉あそびの実践による保育体験		
	4	言葉を豊かに育む活動②	文字体験、制作等による体験実践		
	5	言葉を豊かに育む活動③	言葉の指導案作成		
	6	保育者の言葉の在り方	言葉の遅れや障害を持つ乳幼児のとらえ方、支援		
	7	計画と連携の大切さ	言葉の計画と保育施設と小学校との連携		
	8	総まとめ	言葉についてのまとめ		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
履修上の留意点 出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	こどもの指導法「リズム表現」		指導担当者名	齋藤 由香	
実務経験	児童福祉施設、幼稚園、介護施設等で講師として従事			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	1単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	・保育の内容を理解し、子どもの音楽表現遊び、身体表現遊びを展開するために必要な知識や技術が習得できる ・表現する力を育てるための手法を身体表現、音楽表現の分野から実践を通して習得できる ・表現する力を育てるための保育者の役割と援助の在り方を、習得できる				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	やさしいアレンジで楽しく弾ける！保育のピアノ伴奏12か月人気150曲 (株)西東社				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	領域「表現」についての基本的な考え方	保育所保育指針、幼稚園教育要領における領域「表現」		
	2	表現する力を育てるための実践方法	身体的表現(歩くの基本リズムパターンの理解とその応用)		
	3		身体的表現(サイドウォーク、サイドステップの基本リズムパターンの理解とその応用)		
	4		身体的表現(ギャロップ、スキップの基本リズムパターンの理解とその応用)		
	5		音楽的表現(幼児曲のパネルシアター)		
	6		音楽的表現(幼児曲のパネルシアター)		
	7	表現する力を育てるための保育者の役割と援助	音楽的表現(幼児曲のパネルシアター)創作ダンス		
	8	表現する力を育てるための役割と援助	創作ダンス、ハンドベル		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
履修上の留意点					
出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	こどもの指導法「造形表現」		指導担当者名	大町 亨
実務経験	専門学校や絵画教室で講師として従事			実務経験：有
開講時期	後期		対象学科学年	こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：
単位数	1単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	1.素材・技法に関する基本的な理解をもつ 2.保育者としての造形表現力を深め、造形表現活動の援助に必要な実践力を身につける			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	萌文書林 保育をひらく造形表現			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	17	造形表現の意義	・自分を感じる一身体感覚を豊かにする ・感性をみがく一環境とのかかわりを深める	
	18		・心をひらく一ありのままである自由感 ・課題 カッターナイフで鉛筆を削り、スケッチブックに自分をデッサンしよう	
	19	造形を楽しむための造形	・点と線を遊ぶ ・空間のマジック ・色の探検	
	20		・形の発見・錯覚の再発見 ・版の不思議 ・紙の変身一平面と立体 ・紙の技一伝える・演じる ・課題 折り紙制作	
	21	子どもの造形表現の発達	・グループ製作活動・造形表現の発達論 ・子どもの描画の特徴とその背景	
	22		・発達に即した援助と発達過程に見られる個人差 ・課題 子どもが友だちと遊んでいる風景	
	23	造形表現指導の実際	・指導のねらい ・保育者の役割	
	24	造形表現指導の実際	・指導形態 ・間接的、直接的な援助	
	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	こどもの指導法「音楽表現」Ⅰ		指導担当者名	齋藤 由香	
実務経験	児童福祉施設、幼稚園、介護施設等で講師として従事			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	1単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	・具体的に、保育現場で用いられている楽曲を題材にしながら、音楽的な基礎知識が理解できる ・基礎知識を応用しながら、幼児用楽曲を簡易伴奏の形で編曲する技術を身につけることにより、こどもにリアルタイムで関わる ことが可能となる ・基礎知識を応用しながら、こどもと共に楽しむ事のできる音楽活動を、鍵盤楽器を中心とした楽器をアンサンブルすることによ って、展開できるようになる				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満 点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結 果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価と する。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	やさしいアレンジで楽しく弾ける！保育のピアノ伴奏12か月人気150曲 (株)西東社				
授業外学習 の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	オリエンテーション 音楽理論	音のしくみについて		
	2	基礎演習Ⅰ	ピアノ 課題曲練習		
	3		ピアノ 課題曲練習		
	4		ピアノ 課題曲発表		
	5		ソルフェージュ 課題曲練習		
	6		ソルフェージュ 課題曲練習		
	7		ソルフェージュ 課題曲発表		
	8	まとめ	実践演習		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
履修上の留意点 出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	こどもの指導法「音楽表現」Ⅱ		指導担当者名	齋藤 由香	
実務経験	児童福祉施設、幼稚園、介護施設等で講師として従事			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	1単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	・具体的に、保育現場で用いられている楽曲を題材にしながら、音楽的な基礎知識が理解できる ・基礎知識を応用しながら、幼児用楽曲を簡易伴奏の形で編曲する技術を身につけることにより、こどもにリアルタイムに関わることが可能となる ・基礎知識を応用しながら、こどもと共に楽しむ事のできる音楽活動を、鍵盤楽器を中心とした楽器をアンサンブルすることによって、展開できるようになる				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	やさしいアレンジで楽しく弾ける！保育のピアノ伴奏12か月人気150曲 (株)西東社				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	オリエンテーション 音楽理論	音のしくみについて		
	18	基礎演習Ⅱ	ピアノ 課題曲練習		
	19		ピアノ 課題曲練習		
	20		ピアノ 課題曲発表		
	21		ソルフェージュ 課題曲練習		
	22		ソルフェージュ 課題曲練習		
	23		ソルフェージュ 課題曲発表		
	24	まとめ	実践演習		
	25				
	26				
	27				
	28				
	29				
	30				
	31				
	32				
履修上の留意点 出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	こどもと造形Ⅰ		指導担当者名	大町 亨	
実務経験	専門学校や絵画教室で講師として従事			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	1単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	1.保育内容を理解し、子どもの造形的な遊びを展開するために必要な造形知識が理解できることを目標にします。 2.形や色、材質等の造形に関する基礎知識をもとに、えがくための材料や用具の取り扱いと製作活動を通して造形表現ができることを目標にします。 3.子どもの生活経験と造形表現活動を結びつける遊びの展開を踏まえ、実践的な保育の教材やそれらを展開するための知識や技術を習得できることを目標にします。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	資料配布				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	紙の使った制作	・子どもの製作活動と発達を理解する ・材料と子どもの製作活動を考える ・紙の種類・特質		
	18		・動物のリュックとお弁当		
	19	絵具やクレヨンを使った制作	・絵の具やクレヨンの特性を知る		
	20		・寒色、暖色を絵の具で表現しよう		
	21	シュールレアリスム	・シュールレアリスム的な世界とは「卵の中の世界」「立方体の中の不思議な世界」を描く		
	22		・シュールレアリスム的な世界とは「卵の中の世界」「立方体の中の不思議な世界」を描く		
	23	子どもの絵の具の発達について	・子どもの絵の発達の道筋の特徴、表現技術、指導、援助について		
	24	まとめ			
	25				
	26				
	27				
	28				
	29				
	30				
	31				
	32				
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名		表現とこどもの運動		指導担当者名		鴻巣あすか		
実務経験		児童福祉施設で保育士として従事					実務経験:	有
開講時期		前期		対象学科学年		こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース		
授業方法		講義:	演習:○		実習:		実技:	
単位数		1単位		週時間数		1コマ(90分/コマ)		
学習到達目標		・子どもの発育発達に即した運動能力を理解し、年齢にあった運動遊び（集団遊び・競争遊び・素材を使った遊び・用具器具を使った遊び） などを考え、学生を園児に見立て、グループで考案した運動遊びが指導できる ・具の安全性についての認識を深め、こどもたちが安全に遊べる指導ができる						
評価方法 評価基準		学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。						
使用教材		授業時に適宜に参考資料を配布						
授業外学習の方法		授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等			
授業計画 前期	1	こどもの発育発達			身体発育発達 機能発育発達 心の発育発達			
	2	こどもと運動			乳幼児期の発達段階と運動 運動と人格的な発達			
	3	こどもの動作の発育発達			動作の発達 運動発達のロバストネス			
	4	こどもと環境			遊び環境の現状 こどもの遊びの世界			
	5	運動遊びにおける援助者の役割			人的環境を整える 安全管理と安全教育			
	6	運動遊びの実際			運動遊びの意義 遊具を使わない遊び 遊具を使う遊び			
	7	こどもの遊びと遊具			遊具の種類と分類 遊具と運動機能			
	8	園外保育と野外活動			園外保育の意義 野外活動の意義			
	9							
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
	15							
	16							
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。								

授業計画(シラバス)

科目名	乳児保育Ⅰ		指導担当者名	園谷 厚子	
実務経験	児童福祉施設で保育士や総合病院小児病棟で医療保育専門士としての従事			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	2単位		週時間数	1コマ(90分／コマ)	
学習到達目標	1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 2. 保健所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3.3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	中央法規『乳幼児保育Ⅰ・Ⅱ』保育所保育指針 郁洋舎『0・1・2歳児の発達と保育』				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	オリエンテーション 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷	乳幼児保育の定義・乳児保育の意義と目的		
	18	乳児保育及び子育て家庭に対する吾支援をめぐる 社会的状況と課題	乳児保育及び子育て家庭に対する吾支援をめぐる社会的状況と課題		
	19	保育所における乳児保育	保育所の位置づけや役割		
	20	保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育	保育所の位置づけや役割		
	21	家庭的保育・小規模保育等における乳児保育	家庭的保育・小規模保育における乳児保育		
	22	3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の	子育て支援の現状		
	23	3歳未満児の生活と環境	乳児保育における生活の場としての環境の整え方		
	24	3歳未満児の遊びと環境	環境を通して行う保育		
	25	3歳以上児の保育に移行する時期の保育	乳児保育の前提を確認する		
	26	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育者による	保育所保育指針改定にみる保育の特性と援助の実際		
	27	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における	保育全般に関わる配慮事項		
	28	乳児保育計画・記録・評価とその意義	保育の計画と実践		
	29	保育の計画と実践	乳児保育における保育者の業務と役割		
	30	保護者との連携・協働	保育全般に関わる配慮事項		
	31	自治体や地域の関係機関等との連携・協働 まとめ	保育所と地域の社会資源		
	32				
履修上の留意点 出席率が2／3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名		保育実習指導Ⅰ		指導担当者名		原澄江		
実務経験		幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事				実務経験:	有	
開講時期		後期		対象学科学年		こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース		
授業方法		講義:		演習:○		実習:		実技:
単位数		2単位		週時間数		1コマ(90分/コマ)		
学習到達目標		・保育実習の意義や目的・実習姿勢について理解する ・保育実習の計画や記録が記述できるようにする ・実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする						
評価方法 評価基準		学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。						
使用教材								
授業外学習の方法		授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等			
授業計画 後期	17	オリエンテーション 保育実習の目的と概要			実習の意義と目的について			
	18	福祉職としての保育士			子どもの権利条約 全国保育士会倫理綱領			
	19	保育実習の心構えと準備			実習の進め方・段階について 実習生としての心構え、守秘義務			
	20	保育実習の記録			保育実習の記録とは			
	21	実習課題			実習課題のとは 実習課題の立て方のポイント			
	22	保育所実習① 保育所の役割			一日の保育の流れと保育の展開			
	23	保育所実習② 保育所における子ども理解			乳児期の子ども 幼児期の子ども			
	24	保育所実習③ 保育所保育士の職務理解			子どもを保育すること 職員間の連携について 保護者との連携について			
	25	保育所実習④ 保育所における計画と実践			保育計画に基づく指導案の作成 環境構成・保育者の援助、配慮の記入方法			
	26	保育所実習⑤ 保育環境と安全			子どもの生活と保育環境			
	27	施設実習① 施設保育士の役割と機能			保育所保育士の業務 家庭支援 自立支援			
	28	施設実習② 児童福祉施設における留意点			児童養護施設について			
	29	施設実習③ 障害児者施設における留意点			障害児施設について 障害者施設について			
	30	実習後の学び			グループワーク、個別指導による振り返り、報告会			
	31	全体総括(福祉施設)			総括、評価、自己課題の明確化			
	32							
履修上の留意点 出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。								

授業計画(シラバス)

0		保育実習Ⅰ（保育所）		指導担当者名		原 澄江		
実務経験		幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事					実務経験：	有
開講時期		後期		対象学科学年		こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース		
授業方法		講義：		演習：		実習：○		実技：
単位数		2単位		週時間数		40時間		
学習到達目標		・保育実習の意義や目的・実習姿勢について理解する ・保育実習の計画や記録が記述できるようにする ・実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする						
評価方法 評価基準		学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。						
使用教材		実習の記録と指導案 ひかりのくに						
授業外学習の方法		授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等			
授業計画 後期		保育園での実習を10日間で80時間、児童福祉施設での実習を10日間で80日間実施する。実習項目と内容は以下の通りである。						
		オリエンテーション 保育実習の目的と概要 福祉職としての保育士 保育実習の心構えと準備 保育実習の記録 保育実習の記録 実習課題 保育所実習① 保育所の役割 保育所実習② 保育所における子ども理解□ 保育所実習③ 保育所保育士の職務理解□ 保育所実習④ 保育所における計画と実践□ 保育所実習⑤ 保育環境と安全□ 施設実習① 施設保育士の役割と機能□ 施設実習② 児童福祉施設における留意点□ 施設実習③ 障害児者施設における留意点□ 実習後の学び□			実習の意義と目的について□ 子どもの権利条約 全国保育士会倫理綱領□ 実習の進め方・段階について 実習生としての心構え、守秘義務□ 保育実習の記録とは□ 実習課題のとは 実習課題の立て方のポイント□ 一日の保育の流れと保育の展開□ 乳児期の子ども 幼児期の子ども□ 子どもを保育すること 職員間の連携について 保護者との連携について□ 保育計画に基づく指導案の作成 環境構成・保育者の援助、配慮の記入方法□ 子どもの生活と保育環境□ 保育所保育士の業務 家庭支援 自立支援□ 児童養護施設について□ 障害児施設について 障害者施設について□ 総括、評価、自己課題の明確化			
履修上の留意点								
出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。								

授業計画(シラバス)

科目名		演習実習Ⅰ		指導担当者名		全教員		
実務経験		保育現場で保育者としての勤務経歴有り					実務経験:	
開講時期		通年		対象学科学年		こども保育科2年 保育士コース		
授業方法		講義:		演習:		実習:○		実技:
単位数		2単位		週時間数		1コマ(90分/コマ)		
学習到達目標		・保育実習の意義や目的・実習姿勢について理解する ・保育実習の計画や記録が記述できるようにする ・保育教材の研究をし指導計画案や実習時に反映させることができる ・実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする						
評価方法 評価基準		学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。						
使用教材		授業時に適宜に参考資料を配布						
授業外学習の方法		授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等			
授業計画 通年		保育施設での実習を10日間で80時間実施する。実習項目と内容は以下の通りである。又は54コマ分の演習を行う。						
		オリエンテーション			実習の意義			
		保育実習の総合的な理解□			専門性と職業倫理についての理解□			
		保育実習の総合的な理解□			子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解□			
		保育実践力の育成□			部分実習の指導計画の立案・準備□			
		保育実践力の育成□			1日実習の指導計画の立案・準備□			
		保育実践力の育成□			指導案の発表□			
		実習後の学び□			グループワーク、報告会□			
		全体総括□			今後の自己課題の明確化			
履修上の留意点								
出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。								

授業計画(シラバス)

0	保育実習Ⅰ（施設）		指導担当者名	添田 美華
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事			実務経験：有
開講時期	後期	対象学科学年		こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：
単位数	2単位	週時間数	40時間	
学習到達目標	・保育実習の意義や目的・実習姿勢について理解する ・保育実習の計画や記録が記述できるようにする ・実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)（優）、B(70点～79点)（良）、C(60点～69点)（可）、D(0点～59点)（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	実習の記録と指導案 ひかりのくに			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期		保育園での実習を10日間で80時間、児童福祉施設での実習を10日間で80日間実施する。実習項目と内容は以下の通りである。		
		オリエンテーション 保育実習の目的と概要 福祉職としての保育士 保育実習の心構えと準備 保育実習の記録 保育実習の記録 実習課題 保育所実習① 保育所の役割 保育所実習② 保育所における子ども理解□ 保育所実習③ 保育所保育士の職務理解□ 保育所実習④ 保育所における計画と実践□ 保育所実習⑤ 保育環境と安全□ 施設実習① 施設保育士の役割と機能□ 施設実習② 児童福祉施設における留意点□ 施設実習③ 障害児者施設における留意点□ 実習後の学び□	実習の意義と目的について□ 子どもの権利条約 全国保育士会倫理綱領□ 実習の進め方・段階について 実習生としての心構え、守秘義務□ 保育実習の記録とは□ 実習課題のとは 実習課題の立て方のポイント□ 一日の保育の流れと保育の展開□ 乳児期の子ども 幼児期の子ども□ 子どもを保育すること 職員間の連携について 保護者との連携について□ 保育計画に基づく指導案の作成 環境構成・保育者の援助、配慮の記入方法□ 子どもの生活と保育環境□ 保育所保育士の業務 家庭支援 自立支援□ 児童養護施設について□ 障害児施設について 障害者施設について□ 総括、評価、自己課題の明確化	
履修上の留意点				
出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名		演習実習Ⅱ		指導担当者名		全教員		
実務経験		保育現場で保育者としての勤務経歴有り					実務経験:	
開講時期		通年		対象学科学年		こども保育科2年 保育士コース		
授業方法		講義:		演習:		実習:○		実技:
単位数		2単位		週時間数		1コマ(90分/コマ)		
学習到達目標		・保育実習の意義や目的・実習姿勢について理解する ・保育実習の計画や記録が記述できるようにする ・保育教材の研究をし指導計画案や実習時に反映させることができる ・実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする						
評価方法 評価基準		学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。						
使用教材		授業時に適宜に参考資料を配布						
授業外学習の方法		授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等			
授業計画 通年		保育施設での実習を10日間で80時間実施する。実習項目と内容は以下の通りである。又は54コマ分の演習を行う。						
		オリエンテーション			実習の意義			
		保育実習の総合的な理解□			専門性と職業倫理についての理解□			
		保育実習の総合的な理解□			子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解□			
		保育実践力の育成□			部分実習の指導計画の立案・準備□			
		保育実践力の育成□			1日実習の指導計画の立案・準備□			
		保育実践力の育成□			指導案の発表□			
		実習後の学び□			グループワーク、報告会□			
		全体総括□			今後の自己課題の明確化			
履修上の留意点								
出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。								

授業計画(シラバス)

科目名	こどもと体育Ⅰ		指導担当者名	國分 千恵	
実務経験	児童福祉施設にて保育士として従事			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	1単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	・子どもの心身の発達に関する理論や知識を理解する。 ・子どもものの心身の発達に合わせた運動遊びの方法を知り、援助方法を理解する。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	授業時に適宜に参考資料を配布				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	0歳児から幼児期の体の発達について	ハイハイからつかまり立ち、自立歩行までの体験		
	2	運動遊びにおける支援のあり方	乳幼児期の運動発達の特徴		
	3	1～3歳児の運動遊び	運動の発達特性、発達を促すふれあい遊び		
	4	1～3歳児の親子ふれあい運動遊び	親子で体を動かし触れ合いながら楽しめる運動遊びの体験		
	5	4～5歳児の運動遊び	4～5歳児の運動発達の特徴、発達を促す遊び		
	6	4～5歳児のルールのある運動遊び	幼児のルールの理解と遊びを楽しむ方法の理解		
	7	創作遊び	意見を出し合いながら遊びを作り出す体験		
	8	遊びの振り返り	0歳児から5歳児までの運動遊びの理解を深める		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名		こどもと音楽Ⅰ		指導担当者名		齋藤 由香	
実務経験		児童福祉施設、幼稚園、介護施設等で講師として従事				実務経験：有	
開講時期		前期		対象学科学年		こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法		講義：	演習：○		実習：		実技：
単位数		2単位		週時間数		1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標		1.保育者にとって必要な音楽的基礎技能の養成を目指し、より高度な目標を持って、授業を展開することにより、ピアノ演奏技術の習得や弾き歌いする力の習得ができるようになると同時に、それを保育現場に活かす応用力、音楽的感性を培うことができる 2.近年、多くの保育士及び、幼稚園教諭の採用試験で課題として課せられる、「原譜による弾き歌い」や「初見視奏」に対応しているため、原譜を弾きこなす力や即興力がつく					
評価方法 評価基準		学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。					
使用教材		やさしいアレンジで楽しく弾ける！保育のピアノ伴奏12か月人気150曲 (株)西東社					
授業外学習の方法		授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等			
授 業 計 画 前 期	1	オリエンテーション		授業内容、課題選択、学習方法、基礎知識などの説明			
	2	課題曲のレッスン		課題曲の進度・完成度の確認			
	3	課題曲のレッスン		課題曲の進度・完成度の確認			
	4	課題曲のレッスン		課題曲の進度・完成度の確認			
	5	課題曲のレッスン		課題曲の進度・完成度の確認			
	6	課題曲のレッスン		課題曲の進度・完成度の確認			
	7	課題曲のレッスン		課題曲の進度・完成度の確認			
	8	課題曲のレッスン		課題曲の進度・完成度の確認			
	9	課題曲のレッスン		課題曲の進度・完成度の確認			
	10	課題曲のレッスン		課題曲の進度・完成度の確認			
	11	課題曲のレッスン		課題曲の進度・完成度の確認			
	12	課題曲のレッスン		課題曲の進度・完成度の確認			
	13	課題曲のレッスン		課題曲の進度・完成度の確認			
	14	課題曲のレッスン		課題曲の進度・完成度の確認			
	15	課題曲のレッスン		課題曲の進度・完成度の確認			
	16						
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。							

授業計画(シラバス)

科目名	こどもと文化Ⅰ		指導担当者名	鴻巣あすか	
実務経験	児童福祉施設にて保育士として従事			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	2単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	・保育の現場で使用される子どもの児童文化財の持つ意義を倫理的に理解する。 ・保育の場で使用される児童文化財について、その内容及び保育技術を獲得する。 ・絵本、紙芝居等から子どもの情緒を豊かに育てることの意義・意味を認識する。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	資料配布等				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	こどもと文化の関わり制作基礎	子どもの成長、発達と遊び、玩具制作するにあたっての基礎、仕方		
	18	伝統文化	歴史、意義		
	19	児童文化財①	選び方、方法、留意点		
	20	児童文化財②	実演		
	21	ペープサート①	ペープサートとは・ペープサート制作(下絵・着色)		
	22		ペープサート制作(着色・組み立て)		
	23		ペープサート制作(着色・組み立て)		
	24	ペープサート②	ペープサートとは・ペープサート制作(下絵・着色)		
	25		ペープサート制作(着色・組み立て)		
	26		ペープサート制作(着色・組み立て)		
	27	パネルシアター	パネルシアターとは・パネルシアター台制作		
	28		パネルシアター制作(・下絵着色)		
	29		パネルシアター制作(着色・組み立て)		
	30		パネルシアター制作(着色・組み立て)		
	31	実演	ペープサート・パネルシアターの実演		
	32				
出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	レクリエーション実習Ⅰ		指導担当者名	添田 美華
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り			実務経験:
開講時期	通年		対象学科学年	こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
単位数	1単位(16時間)		週時間数	
学習到達目標	・コミュニケーションを深め、高める ・集団行動を通して協調性、一般常識やルール、マナーを学ぶ			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	配布資料			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授 業 計 画		1年次 バスハイク	保育に関する学びを深め、さらに目標に向かって進んでいけるようにする	
		1年次 学園祭	クラスで協力して一つのことをやり遂げる達成感を味わう	
		1年次 球技大会	体を動かし楽しみ、クラスメイトや上級生などとの交流を図る	
履修上の留意点 出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名		就職研修		指導担当者名		全教員		
実務経験		保育現場で保育者としての勤務経歴有り					実務経験:	
開講時期		通年		対象学科学年		こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース		
授業方法		講義:		演習:○		実習:		実技:
単位数		1単位(16単位)			週時間数		1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標		・就職活動の準備、振り返りを通し、個々に必要なスキルを身につける。 ・保育現場の園長や保育者による講話を通し社会人としての自覚を持つことが出来る。						
評価方法 評価基準		学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。						
使用教材		配布資料						
授業外学習の方法		授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等			
授 業 計 画		1年次 ビジネスマナー講座			社会人としてのマナーを学び職業常識を身に付ける 保育者としての常識、マナーを学び、職業に対する心構えを身に付ける			
		1年次 パネルディスカッション			保育現場の先生方とディスカッションして、不安や不明な点、聞いてみたいことなどについてトークをする			
		1年次 実習報告会			実習を終えた2年生の報告会を通して実習に対する心構えや実習時の留意点などを学ぶ			
		1年次 就職前講話			現場の先生方にゲストスピーカーとしてお越しいただき保育現場の現状と課題などの講話を聞き、働くということへの意識付けを行なう			
履修上の留意点								
出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。								

授業計画(シラバス)

科目名	保育研究Ⅰ		指導担当者名	全教員
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り			実務経験：有
開講時期	通年		対象学科学年	こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：
単位数	4単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	実習に向けての技術向上を図る。			
評価方法 評価基準	実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	配布資料			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 通年	1	オリエンテーション	保育研究Ⅰについて説明	
	2	製作の基本	エブロン製作	
	3	製作の基本	エブロン製作	
	4	製作の基本	エブロン製作	
	5	FSG保育園見学	保育園の生活の様子を知る	
	6	FSG保育園見学	保育者の言葉かけについて	
	7	製作の基本	ハサミ・カッター・のりの使い方	
	8	製作の基本	季節の製作	
	9	体験実習事前指導	身だしなみ・心構えについて	
	10	FSG保育園見学	保育園の生活の様子を知る	
	11	FSG保育園見学	保育者の言葉かけについて	
	12	技術力向上	手遊び	
	13	技術力向上	手遊び	
	14	技術力向上	手遊び	
	15	技術力向上	手遊び	
	16			
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	保育研究Ⅰ		指導担当者名	全教員	
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	こども保育科1年 幼稚園教諭併修コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	4単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	実習に向けての技術向上を図る。				
評価方法 評価基準	実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	配布資料				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	わらべうた	わらべうたについての理解		
	18	わらべうた	人形制作		
	19	製作	ペープサートの製作		
	20	製作	ペープサートの製作		
	21	実演	ペープサートの発表		
	22	わらべうた	わらべうたについて実演・理解		
	23	製作	パネルシアターの製作		
	24	製作	パネルシアターの製作		
	25	実演	パネルシアターの発表		
	26	わらべうた	わらべうたについて実演・理解		
	27	製作	手袋シアターの製作		
	28	製作	手袋シアターの製作		
	29	実演	手袋シアターの実演		
	30	わらべうた	わらべうたについて実演・理解		
	31	まとめ			
	32				
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	保育研究Ⅲ		指導担当者名	全教員	
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り			実務経験:	有
開講時期	通年		対象学科学年	こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	4単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	レポート及び科目試験の対策に対し自ら主体的に学び、理解することができる。				
評価方法 評価基準	実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	配布資料				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授 業 計 画 前 期	1	オリエンテーション	豊岡短期大学のレポートシステムについて		
	2	レポート・科目試験対策	各教科の対策授業を実施する		
	3	レポート・科目試験対策	各教科の対策授業を実施する		
	4	レポート・科目試験対策	各教科の対策授業を実施する		
	5	レポート・科目試験対策	各教科の対策授業を実施する		
	6	レポート・科目試験対策	各教科の対策授業を実施する		
	7	レポート・科目試験対策	各教科の対策授業を実施する		
	8	レポート・科目試験対策	各教科の対策授業を実施する		
	9	レポート・科目試験対策	各教科の対策授業を実施する		
	10	レポート・科目試験対策	各教科の対策授業を実施する		
	11	レポート・科目試験対策	各教科の対策授業を実施する		
	12	レポート・科目試験対策	各教科の対策授業を実施する		
	13	レポート・科目試験対策	各教科の対策授業を実施する		
	14	レポート・科目試験対策	各教科の対策授業を実施する		
	15	レポート・科目試験対策	各教科の対策授業を実施する		
	16				
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	保育研究Ⅲ		指導担当者名	全教員	
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	こども保育科1年 幼稚園教諭併修コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	4単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	実習に向けての技術向上を図る。				
評価方法 評価基準	実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	配布資料				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	指導計画案の作成	部分実習の指導計画案の作成		
	18	指導計画案の作成・実演	部分実習の指導計画案の作成・ブレ実習		
	19	指導計画案の作成・実演	部分実習の指導計画案の作成・ブレ実習		
	20	指導計画案の作成	部分実習の指導計画案の作成		
	21	指導計画案の作成・実演	部分実習の指導計画案の作成・ブレ実習		
	22	指導計画案の作成・実演	部分実習の指導計画案の作成・ブレ実習		
	23	指導計画案の作成	部分実習の指導計画案の作成		
	24	指導計画案の作成・実演	部分実習の指導計画案の作成・ブレ実習		
	25	指導計画案の作成・実演	部分実習の指導計画案の作成・ブレ実習		
	26	指導計画案の作成	責任実習の指導計画案の作成		
	27	指導計画案の作成	責任実習の指導計画案の作成		
	28	指導計画案の作成・実演	責任実習の指導計画案の作成・ブレ実習		
	29	指導計画案の作成	責任実習の指導計画案の作成		
	30	指導計画案の作成	責任実習の指導計画案の作成		
	31	指導計画案の作成・実演	責任実習の指導計画案の作成・ブレ実習		
	32				
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	PCスキルアップ講座 I		指導担当者名	井口 義基
実務経験				実務経験:
開講時期	後期		対象学科学年	こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:
単位数	1単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	・入力スピードの正確性の練習。 ・検定範囲を中心にスライド作成やアニメーションを学ぶ。 ・全体的なレイアウトを整え、文章・グラフ・パワーポイントの作成を学ぶ。 ・検定試験に準じた過去問題を解ける力をつける。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	よくわかるWord2019、Excel2019、PowerPoint2019 FOM出版			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	17	練習問題1.2	Word PowerPoint	
	18	練習問題3.4	PowerPoint Excel	
	19	練習問題5.6	PowerPoint Excel	
	20	練習問題7.8	Excel	
	21	練習問題9.10	PowerPoint Excel	
	22	練習問題11.12	Word PowerPoint	
	23	練習問題13.14	Word PowerPoint	
	24	模擬問題	USBメモリ保存・検定に向けた計測(45分)	
	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
履修上の留意点 出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	ピアノレッスンⅠ		指導担当者名	齋藤 由香	
実務経験	児童福祉施設、幼稚園、介護施設等で講師として従事			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	2単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	・ピアノの演奏法の基礎的な知識・技術を習得できることを目標とする。 ・課題曲をしっかりと練習し、演奏技術・表現力を磨く				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	やさしいアレンジで楽しく弾ける！保育のピアノ伴奏12か月人気150曲 (株)西東社				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	オリエンテーション	授業内容、課題選択、学習方法、基礎知識などの説明		
	18	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認		
	19	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認		
	20	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認		
	21	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認		
	22	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認		
	23	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認		
	24	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認		
	25	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認		
	26	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認		
	27	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認		
	28	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認		
	29	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認		
	30	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認		
	31	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認		
	32				
履修上の留意点 出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	実践ゼミⅠ		指導担当者名	全教員	
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り			実務経験:	有
開講時期	通年		対象学科学年	こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	2単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	保育者としての資質を高める。 保育の技術を習得する。				
評価方法 評価基準	実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	配布資料				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 通年	1	実習準備	保育実習Ⅰに向けて準備		
	2	実習準備	保育実習Ⅰに向けて準備		
	3	実習準備	保育実習Ⅰに向けて準備		
	4	実習準備	保育実習Ⅰに向けて準備		
	5	実習準備	保育実習Ⅰに向けて準備		
	6	実習準備	保育実習Ⅰに向けて準備		
	7	実習準備	保育実習Ⅰに向けて準備		
	8	実習準備	保育実習Ⅰに向けて準備		
	9	実習準備	保育実習Ⅰに向けて準備		
	10	実習準備	保育実習Ⅰに向けて準備		
	11	実習準備	保育実習Ⅰに向けて準備		
	12	実習準備	保育実習Ⅰに向けて準備		
	13	実習準備	保育実習Ⅰに向けて準備		
	14	実習準備	保育実習Ⅰに向けて準備		
	15	実習準備	保育実習Ⅰに向けて準備		
	16				
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	保育研究Ⅰ		指導担当者名	全教員	
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	こども保育科1年 幼稚園教諭併修コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	4単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	実習に向けての技術向上を図る。				
評価方法 評価基準	実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	配布資料				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	わらべうた	わらべうたについての理解		
	18	わらべうた	人形制作		
	19	製作	ペープサートの製作		
	20	製作	ペープサートの製作		
	21	実演	ペープサートの発表		
	22	わらべうた	わらべうたについて実演・理解		
	23	製作	パネルシアターの製作		
	24	製作	パネルシアターの製作		
	25	実演	パネルシアターの発表		
	26	わらべうた	わらべうたについて実演・理解		
	27	製作	手袋シアターの製作		
	28	製作	手袋シアターの製作		
	29	実演	手袋シアターの実演		
	30	わらべうた	わらべうたについて実演・理解		
	31	まとめ			
	32				
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	特別研究 I		指導担当者名	全教員	
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り			実務経験:	有
開講時期	通年		対象学科学年	こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	2単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	実習に向けての技術向上や知識習得を図る。 保育者としての倫理観を身につける。				
評価方法 評価基準	実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	配布資料				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 通年	1	特別講義	外部講師による特別講義		
	2	特別講義	外部講師による特別講義		
	3	特別講義	外部講師による特別講義		
	4	特別講義	外部講師による特別講義		
	5	特別講義	外部講師による特別講義		
	6	特別講義	外部講師による特別講義		
	7	特別講義	外部講師による特別講義		
	8	特別講義	外部講師による特別講義		
	9	特別講義	外部講師による特別講義		
	10	特別講義	外部講師による特別講義		
	11	特別講義	外部講師による特別講義		
	12	特別講義	外部講師による特別講義		
	13	特別講義	外部講師による特別講義		
	14	特別講義	外部講師による特別講義		
	15	特別講義	外部講師による特別講義		
	16				
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	保育研究Ⅰ		指導担当者名	全教員
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り			実務経験：有
開講時期	後期		対象学科学年	こども保育科1年 幼稚園教諭併修コース
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：
単位数	4単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	実習に向けての技術向上を図る。			
評価方法 評価基準	実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	配布資料			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	17	わらべうた	わらべうたについての理解	
	18	わらべうた	人形制作	
	19	製作	ペープサートの製作	
	20	製作	ペープサートの製作	
	21	実演	ペープサートの発表	
	22	わらべうた	わらべうたについて実演・理解	
	23	製作	パネルシアターの製作	
	24	製作	パネルシアターの製作	
	25	実演	パネルシアターの発表	
	26	わらべうた	わらべうたについて実演・理解	
	27	製作	手袋シアターの製作	
	28	製作	手袋シアターの製作	
	29	実演	手袋シアターの実演	
	30	わらべうた	わらべうたについて実演・理解	
	31	まとめ		
	32			
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	教育心理学		指導担当者名	富森 崇
実務経験	学校でのカウンセリングや発達障害のこどもたちの支援に従事			実務経験: 有
開講時期	後期		対象学科学年	こども保育科1年 幼稚園教諭・短大コース
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
単位数	2単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	・学習・人格・適応・発達・評価という教育心理学の基礎的な事項を理解し、その特徴を説明することができる。 ・教育・保育場面を心理学の観点から見つめ分析することで、理解を深めることができる。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	学びと教えて育つ心理学-教育心理学入門-/小林芳郎編著/保育出版社			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	17	オリエンテーション	教育心理学の領域と目的・研究方法	
	18	こどもの発達①	発達の原理と段階	
	19	こどもの発達②	発達の諸相と教育/遊びの発達	
	20	こどもの学び①	学習理論/条件付け	
	21	こどもの学び②	動機づけ/原因帰属	
	22	どのように教えるか①	学習指導と援助法/適性処遇交互作用	
	23	どのように教えるか②	発見学習/プログラム学習	
	24	学級集団での学び	学級集団の働きとその指導	
	25	パーソナリティ	類型論/特性論/精神分析理論	
	26	適応①	適応とは何か/欲求とその種類	
	27	適応②	欲求不満と機制	
	28	評価する①	教育評価の意義と方法	
	29	評価する②	いつ評価するか:診断的評価・形式的評価・総括的評価	
	30	発達とところへの援助①	発達の傷害とその支援	
	31	発達とところへの援助②	カウンセリングとカウンセリングマインド	
	32			
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	キャリアプランⅡ		指導担当者名	原 澄江	
実務経験	幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事			実務経験:	有
開講時期	通年		対象学科学年	こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	2単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	・保育者としての立ち居振る舞い、資質を磨く。 ・社会人としての立ち居振る舞い、資質を磨く。				
評価方法 評価基準	出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	資料配布				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション	自己紹介・親睦を深める		
	2		自己紹介・親睦を深める		
	3	保育者として	保育者としての心構え		
	4		保育者としての心構え		
	5		保育者の身だしなみ・服装など		
	6		保育者の身だしなみ・服装など		
	7	保育者として	保育者として成長するために		
	8		保育者として成長するために		
	9		コミュニケーション能力を磨くために		
	10		コミュニケーション能力を磨くために		
	11		コミュニケーション技法を使った実践		
	12		コミュニケーション技法を使った実践		
	13		保護者対応とは		
	14		保護者対応とは		
	15		電話対応の仕方と実践		
	16		電話対応の仕方と実践		
履修上の留意点					
出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	キャリアプラン I		指導担当者名	原 澄江	
実務経験	幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事			実務経験:	有
開講時期	通年		対象学科学年	こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○		実習:	実技:
単位数	2単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	・保育者としての立ち居振る舞い、資質を磨く。 ・社会人としての立ち居振る舞い、資質を磨く。				
評価方法 評価基準	出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	資料配布				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授 業 計 画 後 期	17	保育者として	病気やケガや事故の対応		
	18		病気やケガや事故の対応		
	19	実習引継ぎ	オリエンテーションの方法		
	20		オリエンテーションの方法		
	21		礼状の書き方		
	22		礼状の書き方		
	23		指導案について		
	24		指導案について		
	25	実践実技	社会人としての一般常識の理解、心得		
	26	保育者として	社会人としての一般常識の理解、心得		
	27		SNS・Facebook・LINE・twitterについて		
	28		SNS・Facebook・LINE・twitterについて		
	29	社会人として	社会人としてのおもてなし		
	30	実践実技	社会人としてのおもてなし		
	31	保育者として	安定した心の保ち方		
	32		まとめ		
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション論Ⅱ		指導担当者名	添田 美華	
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事			実務経験:	有
開講時期	通年		対象学科学年	こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	2単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	・話すことの重要性、自分の考えを正しく伝えることの大切さを再認識し、様々なシーンでの話し方を習得する。 ・「聞く」ことがコミュニケーションにおいて果たす役割を理解し、傾聴・受容する姿勢を身につける。				
評価方法 評価基準	出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	配布資料				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授 業 計 画 前 期	1	コミュニケーション	出会い・第一印象・自分の良いところ探し		
	2		出会い・第一印象・自分の良いところ探し		
	3	コミュニケーションの基本を身につけよう	コミュニケーションの基本を知る・グループでコミュニケーションをとろう		
	4		コミュニケーションの基本を知る・グループでコミュニケーションをとろう		
	5		コミュニケーションと話し上手・挨拶		
	6		コミュニケーションと話し上手・挨拶		
	7		正しい言葉遣いと敬語		
	8		正しい言葉遣いと敬語		
	9	話すときの心構えを理解しよう	聞き手を意識した心構え、話題の広げ方		
	10		聞き手を意識した心構え、話題の広げ方		
	11	効果的な表現力を身につけよう	効果的に話すとは 話の構成		
	12		効果的に話すとは 話の構成		
	13	実践	子ども達とコミュニケーションをとってみよう		
	14		子ども達とコミュニケーションをとってみよう		
	15		子ども達とコミュニケーションをとってみよう		
	16		子ども達とコミュニケーションをとってみよう		
履修上の留意点					
出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション論Ⅱ		指導担当者名	添田 美華	
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事			実務経験:	有
開講時期	通年		対象学科学年	こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	2単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	・話すことの重要性、自分の考えを正しく伝えることの大切さを再認識し、様々なシーンでの話し方を習得する。 ・「聞く」ことがコミュニケーションにおいて果たす役割を理解し、傾聴・受容する姿勢を身につける。				
評価方法 評価基準	出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	配布資料				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	聞くことの重要性	聴き上手になる話しの聴き方		
	18		聴き上手になる話しの聴き方		
	19		話しを促進する聴く技術		
	20		話しを促進する聴く技術		
	21	実践実技	コミュニケーション技法を使った実践		
	22		コミュニケーション技法を使った実践		
	23		コミュニケーション技法を使った実践		
	24		コミュニケーション技法を使った実践		
	25		コミュニケーション技法を使った実践		
	26		コミュニケーション技法を使った実践		
	27		コミュニケーション技法を使った実践		
	28		コミュニケーション技法を使った実践		
	29		コミュニケーション技法を使った実践		
	30		コミュニケーション技法を使った実践		
	31		まとめ		
	32		まとめ		
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	こども家庭支援論		指導担当者名	原 澄江	
実務経験	幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	2単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	1. 子育て家庭支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3. 子育て家庭に接するに支援の体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率2/3以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	株)みらい 演習・保育と相談援助、資料配布				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	子どもと家庭を取り巻く環境	・家族・家庭を取り巻く環境 ・家族機能の変化		
	18	保育者が実践する子ども家庭支援とは	・保育者の専門性を生かした支援		
	19	子育て家庭を支える法・制度や社会資源	・子育て家庭を支えるこれまでの取り組みおよび支援体系		
	20	保育者に求められる基本的態度および基本的技	・子どもの育ちの喜びの共有		
	21	保育者が行う子ども家庭支援の実際	・教育・保育施設が持つ特性と家庭への支援へのつなぎ方		
	22		・保育場面における具体的な子育て支援の方法		
	23	地域の子育て家庭への支援	・保育所や地域子育て支援拠点で行われる保育士による地域子育て支援		
	24		・地域子育て支援専門職としての支援と実際の取り組み		
	25	さまざまな子ども家庭の理解と支援	・様々な形の家庭と保育士の支援		
	26	不適切な養育環境の子どもやその家庭への支	・保護者のSOSとしての不適切な養育環境への気づき		
	27		・不適切な養育環境の子どもやその家庭における支援の展開		
	28	発達障がい児等の理解と家庭への支援	・日本における障がい児に関する現状と家庭への支援の展開		
	29	子どもの貧困の理解と家庭への支援	・子どもの貧困の定義とその現状		
	30		・子どもの貧困問題における支援の展開		
	31	保育と子ども家庭支援	保育が子ども家庭支援に果たす役割と保育現場に求められるソーシャルワーク		
	32				
履修上の留意点					
出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	こどもの食と栄養		指導担当者名	庄司 由美子	
実務経験	施設での管理栄養士として従事			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	2単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	1.健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ 2.子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める 3.食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する 4.家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ 5.特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養 大塚周二他著 萌文書林				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	子どもの健康と食生活の意義	・子どもの心身の健康と食生活 ・子どもの食生活の現状と課題		
	2	子どもの発育・発達と食生活	・身体発育・精神・運動機能発達と栄養・食生活 ・食べる機能・消化吸収機能の発達と栄養・食生活		
	3	栄養に関する基本的知識	・栄養素・栄養生理・代謝に関する基本的知識 ・日本人の食事摂取基準の意義とその活用		
	4	子どもの発育・発達と食生活 妊娠期(胎児期)の食生活	・妊娠のメカニズムと正常な妊婦の食生活 ・母乳分泌と食生活 ・乳児期の心身の特徴と食生活の関係		
	5	子どもの発育・発達と食生活 幼児期の心身の発達と食生活	・献立作成・調理の基本・調理実習		
	6				
	7		・幼児期の心身の特徴と食生活の関係 ・幼児期の食機能の特徴とその実践 ・間食の意義とその実践 ・お弁当		
	8	子どもの発育・発達と食生活	・献立作成・調理の基本・調理実習		
	9				
	10	食育の基本と内容	・食育における養護と教育の一体性		
	11		・食育のための環境づくり		
	12	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	・家庭における食事と栄養 ・児童福祉施設における食事と栄養		
	13	疾病および体調不良の子どもへの対応	・子どもの疾病の特徴と食生活 ・小児に多い疾病・症状と食生活		
	14	食物アレルギーのある子どもへの対応	・食事療法、食物アレルギーとは ・食物アレルギーの治療		
	15	障がいのある子どもへの対応	・障がいの特徴と食生活 ・摂食・嚥下機能障がい児の食生活の実際		
	16				
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない。対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	こどもの指導法「健康」		指導担当者名	圓谷 厚子	
実務経験	児童福祉施設で保育士や総合病院小児病棟で医療保育専門士としての従事			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	1単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	1.健康とは何かについて理解することができる 2.子どもの発育・発達について理解し、具体的な活動について学習する 3.子どもの健康について望ましい環境を考えることができる 4.子どもの環境、活動における安全について考え、リスクとハザードについて理解することができる				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	フレーベル館『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション 健康の理解	オリエンテーション 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育保育要領保育教育の領域健康の理解		
	2	乳幼児の心身の発育発達	保育の意義と健康観 子どもを理解する		
	3	乳幼児の心身の発育発達	幼児期の形態的発育・機能的発育・発育発達に応じた保育、保育課程変遷の基本		
	4	子どもの心の健康	心も発達とストレスのサイン		
	5	基本的生活習慣の獲得	幼児の生活スタイルの現状と問題点		
	6	子どもの遊びの発達と健康	幼児の遊びを豊かにするための保育者の役割		
	7	安全管理と安全教育	交通安全指導、避難訓練		
	8	健康と自然環境	園外保育の活動内容		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	こどもの指導法「環境」		指導担当者名	添田美華	
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	1単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	1.子どもを取り巻く環境(人的、物的、自然、社会、文化など)について関心をもつ 2.環境にかかわりながら遊ぶ子どもたちの育ちを支える保育者の役割を知る 3.学生自身が自然など身近な環境、素材(教材)などにふれ、遊ぶことによって、環境構成の大切さを知る				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	保育所保育指針解説書 配布資料				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	環境とは	子どもと環境と環境の領域とねらい		
	2	環境の領域に関わる発達、特性	乳幼児の発達と特性		
	3	行事・遊びについて	伝統行事、季節の行事、伝承遊び、わらべ歌 他		
	4	子どもにとって安全な環境づくりとは	園庭や近隣の動物、その他の自然事象・事物		
	5	環境に関する指導計画	環境に関わる保育の指導計画作成		
	6	環境に関する保育実践例	実践例を通して環境について学ぶ		
	7	環境に関する保育の課題	小学校教育との連続性と環境について考える		
	8	総まとめ	まとめ		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	こどもの指導法「音楽表現Ⅲ」		指導担当者名	齋藤 由香	
実務経験	児童福祉施設、幼稚園、介護施設等で講師として従事			実務経験：	有
開講時期	前期		対象学科学年	こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：	
単位数	1単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	・具体的に、保育現場で用いられている楽曲を題材にしながら、音楽的な基礎知識が理解できる ・基礎知識を応用しながら、幼児用楽曲を簡易伴奏の形で編曲する技術を身につけることにより、こどもにリアルタイムで関わる ことが可能となる ・基礎知識を応用しながら、こどもと共に楽しむ事のできる音楽活動を、鍵盤楽器を中心とした楽器をアンサンブルすることによ って、展開できるようになる				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満 点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の 結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価 とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	やさしいアレンジで楽しく弾ける！保育のピアノ伴奏12か月人気150曲 (株)西東社				
授業外学習 の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授 業 計 画 前 期	1	オリエンテーション 音楽理論	音のしくみについて		
	2	基礎演習Ⅲ	ピアノ 課題曲練習		
	3		ピアノ 課題曲練習		
	4		ピアノ 課題曲発表		
	5		ソルフェージュ 課題曲練習		
	6		ソルフェージュ 課題曲練習		
	7		ソルフェージュ 課題曲発表		
	8	まとめ	実践演習		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
履修上の留意点 出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	こどもの指導法「言語表現」		指導担当者名	原澄江
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事			実務経験：有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
単位数	1単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	1.言語で表現する事柄の具体的な内容の理解を深める 2.協力して活動する力を身につける 3.保育者として必要な言語力を身につけ、活用できる			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	保育者になるための国語表現 萌文書林			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	言葉の成長・発達・言葉の習得	年齢に応じた言葉の習得、言葉の大切さ	
	2	児童文化財とは何か	種類、魅力、保育への活用方法	
	3	児童文化財①	お話、素話の特徴、演じ方、留意点他	
	4	児童文化財②	絵本、紙芝居の特徴、種類、演じ方、留意点他	
	5	児童文化財③	ペープサートの特徴、しかけ、演じ方、留意点他	
	6	児童文化財④	パネルシアターの特徴、しかけ、演じ方、留意点他	
	7	言語表現による指導法	言語表現の方法、重要性	
	8	総まとめ	言語表現についてのまとめ	
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
	16			
履修上の留意点 出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	乳児保育Ⅱ		指導担当者名	圓谷 厚子	
実務経験	児童福祉施設で保育士や総合病院小児病棟で医療保育専門士としての従事			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	1単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	1.3歳児未満の保育・発達の過程や特性をふまえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性をふまえ、3歳児未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際について具体的に理解する。 4. 上記の1～3をふまえ、乳児保育における計画の作成について具体的に理解する。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	中央法規『乳幼児保育Ⅰ・Ⅱ』 郁洋舎『0・1・2歳児の発達と保育』				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション 乳児保育の基本 子どもの生活の流れ	特定の大人との関わり 1日の流れと育児担当制		
	2	子どもの保育環境(0歳児) 子どもの援助の実際(0歳児)	乳児が過ごしやすい部屋 生活の援助と遊びの援助		
	3	育児担当制	育児担当制について		
	4	生活の援助の方法	抱っこ・おんぶ・調乳・授乳 着がえ・おむつ替え(演習)		
	5	生活の援助の方法	沐浴演習		
	6	3歳未満児の発育・発達をふまえた援助の実際	おもちゃ製作(課題製作したもの) 対象年齢や遊び方等を発表する		
	7	3歳未満児の発育・発達をふまえた援助の実際	発達に応じた遊び		
	8	まとめ	乳児保育の実践援助の振り替えり		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
	17				
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	障害児保育		指導担当者名	原澄江
実務経験	幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事			実務経験：有
開講時期	後期		対象学科学年	こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：
単位数	2単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	1.障害児保育の理念や制度、歴史的変遷等、その概要を理解する 2.子どもの抱える様々な障害について理解する 3.統合保育による発達支援の具体的な方法について理解する			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	ライフステージを見通した障害児の保育・教育			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	17	障害とは	1.障害のある人の歩み	
	18		2.発達と障害と保育・教育	
	19		3.障害と出会うということは	
	20	障害児保育の基本	1.障害のある子どもの受け入れ 2.関わり方の基本	
	21		3.環境構成 4.指導計画の作成と記録・評価	
	22	障害の理解と支援	1.発達障害	
	23		2.知的障害	
	24		3.言語障害 4.肢体不自由	
	25		5.聴覚障害 6.視覚障害	
	26		7.病弱 8.重複障害 9.福祉と教育の両方の視点を大切に	
	27	発達を目指したさまざまな連携	1.地域・職種との連携	
	28	小学校との接続	1.通常学級、通級、特別支援学級への接続	
	29	思春期・青年期に向けて	1.障害のある子どもの生活	
	30	これまでの障害児保育・教育	1.障害児保育・教育の歴史的変遷	
	31		1.インクルージョン	
	32			
履修上の留意点 出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	社会的養護Ⅱ		指導担当者名	添田 美華	
実務経験	児童発達支援事業所で従事			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	1単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	1.社会的養護の基礎を理解する 2.社会的養護の子どもたちへの権利擁護の重要性を理解する 3.保育士としての役割や専門性を理解する				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	適宜プリントを配布				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授 業 計 画 前 期	1	子どもの養護と保育士	1.養護問題と保育士 2.児童福祉の子どもたち		
	2	施設養護のプロセスの理解	1.現状と問題点、視点、留意点		
	3	保育士の基本的な社会的養護援助・支援	1.基本的な援助・支援 2.生活プログラムの作成		
	4	こころの援助	1.こころの援助とは 2.子どもとのコミュニケーション		
	5	親子関係の援助	1.援助姿勢と保育士の役割 2.チームアプローチ		
	6	地域・学校との関係作り・整備の援助	1.施設と学校との連携 2.地域の関係づくり		
	7	自己実現・自立への支援・援助	1.自立とはなにか 2.自立に向けた支援		
	8	児童福祉施設の運営管理と保育士の資質と倫理	1.児童福祉施設で働くということ 2.保育士の倫理		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
履修上の留意点					
出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	子育て支援		指導担当者名		園谷 厚子	
実務経験	児童福祉施設で保育士や総合病院小児病棟で医療保育専門士としての従事				実務経験:	有
開講時期	前期	対象学科学年		こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース		
授業方法	講義:	演習:○		実習:	実技:	
単位数	1単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)		
学習到達目標	1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動のも本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。 2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び、技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。					
使用教材	子育て支援 15のストーリーで学ぶワークブック 萌文書林 二宮裕子 保育所保育指針解説書フレーベル館					
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	子育て支援とは 子育て支援の意義		子育て支援の制度的基盤 子育て支援が求められる社会的基盤		
	2	子育て支援の基本的価値・倫理 子育て支援の基本姿勢		子どもの最善の利益の尊重 家庭や地域の社会資源との連携		
	3	子育て支援の個本的技術 園内と・園外との連携と社会資源		子育て支援のプロセス 園内の職員間の連携		
	4	記録・評価・研修 日常会話を活用した子育て支援		記録で用いられる様々な文体 送迎時のやり取り		
	5	文書を活用した子育て支援 行事などを活用した子育て支援		連絡帳・お便り 保育参観・保護者会		
	6	環境を活用した子育て支援 地域子育て支援経典における支援		環境を通じた子育て支援の意義 保育所・認定こども園などで実施されることが多い地域子育て支援サービス		
	7	入所施設における子育て支援 通所施設における子育て支援		施設における親と子をつなぐ支援 通所施設をようする保護者の傾向		
	8	まとめと今後の課題		苦情対応 まとめ		
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
履修上の留意点						
出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。						

授業計画(シラバス)

科目名	こどもの健康と安全		指導担当者名	園谷 厚子	
実務経験	児童福祉施設で保育士や総合病院小児病棟で医療保育専門士としての従事			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	1単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 保育における衛生管理・事故防止及び、安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。 3. 保育における感染症対策について具体的に理解する。 4. 子どもの健康及び、安全の管理に関わる、組織的取り組みや保健活動の計画及び評価等について具体的に理解する。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	中央法規『子どもの健康と安全』 ※保育救命に関する資料を配布				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授 業 計 画 前 期	1	オリエンテーション 子どもの健康と保育の環境 こどもの保健に関する個別対応と集団全体の健康	保育所等に求められる環境と現状 日常の健康管理、健康観察のポイント		
	2	衛生管理 事故防止及び安全対策	室内外の衛生管理 保育施設での事故の原因と対応 (危険予知トレーニング)		
	3	災害への備えと危機管理 体調不良や傷害が発生した場合の対応	危機管理 (災害時に求められる判断力と行動力) 子どものバイタルサインと全身状態の観察(バイタルサインの測定)		
	4	救急処置および救急蘇生法	こどもの事故とけが (こどもの救急救命法) AED(演習)		
	5	感染症の集団発生と予防対策	感染症の基礎知識(吐物処理の方法)		
	6	個別的配慮を必要とする子どもへの対応 障害のある子どもへの適切な対応	幼児期によくみられる健康障害とそれぞれに必要な具体的な支援 障害の定義		
	7	職員間の連携・協働と組織的取り組み 保育所における保健計画及び評価	連携・協働・ネットワーク 健康診断(身体測定の手技)		
	8	子どもを中心とした家庭・専門機関・地域との連携 まとめ	医療的ケアを必要とする子どもの保育所の受け入れ 授業の振り返り		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	保育実践演習		指導担当者名	原 澄江	
実務経験	幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	2単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	1.保育者としての使命感や責任感を高める。 2.多様な子ども、保護者に対応できるよう社会性や対人関係力を高める。 3.多様な子どもの育ちを的確に理解する力を身につける。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	配布資料				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授 業 計 画 前 期	1	保育者という職業	・保育者の意義 ・保育者に求められる資質と能力		
	2		・保育者になる-研修・研究の必要性-		
	3	クラス経営	・クラスとクラス経営 ・担任の役割		
	4		・クラス経営案作成上の留意点		
	5	特別支援教育の基礎	・発達障害とは何か ・発達障害の共通点		
	6		・発達障害の諸障害及び知的障害の概要		
	7	特別支援教育と保育者	・特別な教育ニーズを持つこどもと保護者への対応		
	8		・特別な教育ニーズを持つこどもと保護者への対応		
	9	保育における集団の編成	・保育者における支援の留意点とポイント		
	10		・異年齢保育 ・統合保育		
	11		・幼児教育の将来的展望		
	12	幼保小連携	・学びと発達の連続性からみた幼保小連携		
	13		・幼保小の滑らかな接続の為に		
	14	今後の課題	・わたしの課題を文章化する		
	15		・子どもの育ちを支える教師・保育士のために		
	16				
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	こどもと体育Ⅱ		指導担当者名	國分 千恵
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事			実務経験：有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：
単位数	1単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	・子どもの発育発達に即した運動能力を理解し、年齢にあった運動遊びが考えられ指導できる ・運動遊びの指導法や必要な知識の習得が出来る			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	授業時に適宜に参考資料を配布			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	幼児期の運動遊びの体験の振り返り	
	2	遊具を使った遊び	ボール・フープ・なわを使って遊ぶ	
	3	大型遊具を使った遊び	マット・平均台・跳び箱・鉄棒を使って遊ぶ	
	4	大型遊具を使った遊び	すべり台・鉄棒・のぼり棒・砂場を使って遊ぶ	
	5	伝承遊び	新聞紙・おにごっこ・ゴム跳びの実践	
	6	指導計画について	指導計画の作成と実践	
	7	集団体操・演技	パラバルーンを通して集団で遊ぶ	
	8	総まとめ	まとめ	
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
	16			
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	こどもと音楽Ⅱ		指導担当者名	二階堂 恵美子	
実務経験	ピアノ教室で講師として従事			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	2単位		週時間数	1コマ(90分／コマ)	
学習到達目標	1.保育者にとって必要な音楽的基礎技能の養成を目指した「こどもと音楽Ⅰ」に続き、より高度な目標を持って、授業を展開することにより、ピアノ演奏技術の習得や弾き歌いする力の習得ができるようになると同時に、それを保育現場に活かす応用力、音楽的感性を培うことができる 2.近年、多くの保育士及び、幼稚園教諭の採用試験で課題として課せられる、「原譜による弾き歌い」や「初見視奏」に対応しているため、原譜を弾きこなす力や即興力がつく				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	やさしいアレンジで楽しく弾ける！保育のピアノ伴奏12か月人気150曲 (株)西東社				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業内容、課題選択、学習方法、基礎知識などの説明		
	2	課題曲のレッスン	課題曲の進度・完成度の確認		
	3	課題曲のレッスン	課題曲の進度・完成度の確認		
	4	課題曲のレッスン	課題曲の進度・完成度の確認		
	5	課題曲のレッスン	課題曲の進度・完成度の確認		
	6	課題曲のレッスン	課題曲の進度・完成度の確認		
	7	課題曲のレッスン	課題曲の進度・完成度の確認		
	8	課題曲のレッスン	課題曲の進度・完成度の確認		
	9	課題曲のレッスン	課題曲の進度・完成度の確認		
	10	課題曲のレッスン	課題曲の進度・完成度の確認		
	11	課題曲のレッスン	課題曲の進度・完成度の確認		
	12	課題曲のレッスン	課題曲の進度・完成度の確認		
	13	課題曲のレッスン	課題曲の進度・完成度の確認		
	14	課題曲のレッスン	課題曲の進度・完成度の確認		
	15	課題曲のレッスン	課題曲の進度・完成度の確認		
	16				
履修上の留意点 出席率が2／3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	こどもと音楽Ⅲ		指導担当者名	齋藤 由香	
実務経験	児童福祉施設、幼稚園、介護施設等で講師として従事			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	1単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	・具体的に、保育現場で用いられている楽曲を題材にしながら、音楽的な基礎知識が理解できる ・基礎知識を応用しながら、幼児用楽曲を簡易伴奏の形で編曲する技術を身につけることにより、こどもにリアルタイムで関わる ことが可能となる ・基礎知識を応用しながら、こどもと共に楽しむ事のできる音楽活動を、鍵盤楽器を中心とした楽器をアンサンブルすることによっ て、展開できるようになる				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満 点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の 結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価 とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	やさしいアレンジで楽しく弾ける！保育のピアノ伴奏12か月人気150曲 (株)西東社				
授業外学習 の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業 計画 後期	17	オリエンテーション 音楽理論	音のしくみについて①		
	18	音楽理論	音のしくみについて②		
	19		楽器について①(鍵盤ハーモニカ)		
	20		楽器について②(鍵盤ハーモニカ)		
	21		楽器について①(打楽器)		
	22		楽器について②(打楽器)		
	23	子どもの身近な楽器とその演奏方法アンサンブル	鍵盤楽器、小物等の楽器等、アンサンブル譜の読み方の理解と演奏練習		
	24	子どもの身近な楽器とその演奏方法アンサンブル	鍵盤楽器、小物等の楽器等、アンサンブル譜の演奏練習、発表(グループ)		
	25				
	26				
	27				
	28				
	29				
	30				
	31				
	32				
履修上の留意点 出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名		こどもと文化Ⅱ		指導担当者名		原澄江		
実務経験		幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事				実務経験:	有	
開講時期		後期		対象学科学年		こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース		
授業方法		講義:		演習:○		実習:		実技:
単位数		2単位		週時間数		1コマ(90分/コマ)		
学習到達目標		1.絵本、紙芝居、劇あそび、音楽遊びなど保育の場で使用される子どもの文化財の持つ意義を理解し表現する 2.保育の場で使用される文化財について、その内容及び保育技術を獲得できる 3.自分たちが表現する事で、子ども達の気持ちを理解し、子ども達へのかかわり方を学ぶ						
評価方法 評価基準		学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。						
使用教材		配布資料						
授業外学習の方法		授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。						
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等				
授業計画 後期	17	音楽遊びとは何か		音楽遊び、実際に映像を見る				
	18	音楽遊び		幼児曲に合わせて踊る				
	19			全員で1つの音楽に合わせて踊る				
	20	劇遊び構成		劇遊びの題材を考案、配役決定				
	21			劇遊び準備・練習				
	22			劇遊び準備・練習				
	23			劇遊び準備・練習				
	24			劇遊び準備・練習				
	25			劇遊び準備・練習				
	26	劇遊びの制作		劇遊び準備・練習				
	27			劇遊び準備・練習				
	28			劇遊び準備・練習				
	29	発表練習		劇遊び、音楽遊び				
	30			劇遊び、音楽遊び				
	31	発表		劇遊び発表、音楽遊び発表				
	32							
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。								

授業計画(シラバス)

科目名		こどもと造形Ⅱ		指導担当者名		大町亨	
実務経験		専門学校や絵画教室で講師として従事				実務経験：有	
開講時期		前期		対象学科学年		こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法		講義：	演習：○		実習：		実技：
単位数		2単位		週時間数		1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標		1.素材・技法に関しての基本的な理解をもつ 2.保育者としての造形表現力を深め、造形表現活動の援助に必要な実践力を身につける					
評価方法 評価基準		学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。					
使用教材		萌文書林 保育をひらく造形表現					
授業外学習の方法		授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等			
授業計画 前期	1	モダンテクニック技法		・デカルコマニー(合わせ絵)・ストリング(糸引き絵)・ドリッピング(吹き出し) ・スパッタリング(霧吹き)・フロッタージュ(こすりだし)			
	2						
	3			・マーブリング(墨流し)・フィンガーペインティング(指絵)・スクラッチ(ひっかき絵) ・パッチク(はじき絵)・スタンピング(型押し)・コラーージュ(はり絵)			
	4						
	5	日常、廃材による製作		・廃材の組み合わせによるおもしろさ、接着技術 ・メダルをつくる			
	6			・グループごとにテーマを決めて縁日をつくる			
	7			・廃材の組み合わせによるおもしろさ、接着技術 ・メダルをつくる			
	8			・グループごとにテーマを決めて縁日をつくる			
	9	紙粘土制作		・食品サンプルをつくろう			
	10						
	11			・食品サンプルをつくろう			
	12						
	13	シュールレアリスム		シュールレアリスム的な世界とは「卵の中の世界」「立方体の中の不思議な世界」			
	14						
	15	絵手紙		・身近なものに興味を持ち、絵手紙で表現する			
履修上の留意点							
出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。							

授業計画(シラバス)

科目名		保育実習Ⅱ		指導担当者名		原澄江	
実務経験		幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事				実務経験：有	
開講時期		前期		対象学科学年		こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法		講義：		演習：		実習：○ 実技：	
単位数		2単位		週時間数		40時間	
学習到達目標		・保育実習Ⅰで学んだことを発表しグループ討議をして振り返り、保育者としての知識、技術を習得する ・部分実習、責任実習に必要な指導案を立案したり、教材研究を行い、実習における自己課題を明確にする					
評価方法 評価基準		学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。					
使用教材		必要に応じて資料配布					
授業外学習の方法		授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等			
授業計画 前期		保育園での実習を10日間で80時間実施する。実習項目と内容は以下の通りである。					
		オリエンテーション 保育実習の総合的な理解□ 保育実習の総合的な理解□ 保育実践力の育成□ 保育実践力の育成□ 保育実践力の育成□ 実習後の学び□ 全体総括□		実習Ⅱの意義 専門性と職業倫理についての理解□ 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解□ 部分実習の指導計画の立案・準備□ 1日実習の指導計画の立案・準備□ 指導案の発表□ グループワーク、報告会□ 今後の自己課題の明確化			
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。							

授業計画(シラバス)

科目名		保育実習Ⅲ		指導担当者名		添田 美華		
実務経験		児童福祉施設で保育士として従事					実務経験:	有
開講時期		前期		対象学科学年		こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース		
授業方法		講義:		演習:		実習:○		実技:
単位数		2単位		週時間数		40時間		
学習到達目標		1.児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解を深める 2.家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う 3.保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する 4.保育士としての自己の課題を明確化する						
評価方法 評価基準		実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。						
使用教材		必要に応じてプリント配布						
授業外学習の方法		授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等			
授業計画 前期		保育園での実習を10日間で80時間実施する。実習項目と内容は以下の通りである。						
		オリエンテーション□ 保育実習による総合的な学び□ 保育実践力の育成□ 計画と観察、記録、自己評価□ 計画と観察、記録、自己評価□ 保育の専門性と職業倫理□ 事後指導における実習の総括と評価□ 事後指導における実習の総括と評価			実習Ⅲの意義□ 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 子どもの保育と保護者支援□ 子どもの状態に応じた適切な関わり 保育の表現技術を生かした保育実践□ 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践□ 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善□ 保育の専門性と職業倫理□ 実習の総括と自己評価□ 課題の明確化□ □ □			
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。								

授業計画(シラバス)

科目名	保育実習指導Ⅱ		指導担当者名	原澄江
実務経験	幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事			実務経験：有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：
単位数	1単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	・保育実習Ⅰで学んだことを発表しグループ討議をして振り返り、保育者としての知識、技術を習得する ・部分実習、責任実習に必要な指導案を立案したり、教材研究を行い、実習における自己課題を明確にする			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	実習の記録と指導案 ひかりのくに			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	保育実習Ⅱの目的と概要	保育実習Ⅱの意義と目的について	
	2	保育実習の総合的な理解	専門性と職業倫理についての理解	
	3		子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解	
	4	保育実践力の育成	部分実習の指導計画の立案・準備	
	5		1日実習の指導計画の立案・準備	
	6		指導案の発表	
	7	実習後の学び	グループワーク、報告会	
	8	全体総括	今後の自己課題の明確化	
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
	16			
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名		保育実習指導Ⅲ		指導担当者名		添田 美華	
実務経験		児童福祉施設で保育士として従事				実務経験： 有	
開講時期		前期		対象学科学年		こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法		講義：	演習：○		実習：		実技：
単位数		1単位		週時間数		1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標		1.保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ 2.実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う 3.保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ 4.保育士の専門性と職業倫理について理解する 5.実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする					
評価方法 評価基準		実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。					
使用教材		必要に応じてプリント配布					
授業外学習 の方法		授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等			
授業計画 前期	1	オリエンテーション		実習Ⅲの意義			
	2	保育実習による総合的な学び		子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 子どもの保育と保護者支援			
	3	保育実践力の育成		子どもの状態に応じた適切な関わり 保育の表現技術を生かした保育実践			
	4	計画と観察、記録、自己評価		保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践			
	5			保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善			
	6	保育の専門性と職業倫理		保育の専門性と職業倫理			
	7	事後指導における実習の総括と評価		実習の総括と自己評価			
	8			課題の明確化			
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
	16						
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。							

授業計画(シラバス)

科目名	レクリエーション実習Ⅱ		指導担当者名	全教員
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
単位数	1単位	週時間数	16時間	
学習到達目標	・コミュニケーションを深め、高める ・集団行動を通して協調性、一般常識やルール、マナーを学ぶ			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	配布資料			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授 業 計 画 通 年		2年次 バスハイク	保育に関する学びを深め、さらに目標に向かって進んでいけるようにする	
		2年次 学園祭	クラスで協力して一つのことをやり遂げる達成感を味わう	
		2年次 球技大会	体を動かし楽しみ、クラスメイトや上級生などとの交流を図る	
履修上の留意点 出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名		保育研究Ⅱ		指導担当者名		全教員	
実務経験		保育現場で保育者としての勤務経歴有り				実務経験：有	
開講時期		通年		対象学科学年		こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法		講義：		演習：○		実習：実技：	
単位数		4単位		週時間数		1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標		実習に向けての技術向上を図る。					
評価方法 評価基準		実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。					
使用教材		配布資料					
授業外学習の方法		授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等			
授業計画 前期	1	オリエンテーション		保育研究Ⅰについて説明			
	2	製作		ペープサート・パネルシアターの製作			
	3	製作		ペープサート・パネルシアターの製作			
	4	わらべ歌		わらべうたについて実演・理解			
	5	製作		手袋シアター・スケッチブックシアターの製作			
	6	製作		手袋シアター・スケッチブックシアターの製作			
	7	製作		手袋シアター・スケッチブックシアターの製作			
	8	わらべ歌		わらべうたについて実演・理解			
	9	製作		ペープサート・パネルシアター・スケッチブックシアターの製作			
	10	製作		ペープサート・パネルシアター・スケッチブックシアターの製作			
	11	製作		ペープサート・パネルシアター・スケッチブックシアターの製作			
	12	わらべ歌		わらべうたについて実演・理解			
	13	製作		ペープサート・パネルシアター・スケッチブックシアターの製作			
	14	製作		ペープサート・パネルシアター・スケッチブックシアターの製作			
	15	わらべ歌		わらべうたについて実演・理解			
	16						
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。							

授業計画(シラバス)

科目名	保育研究ⅢⅡ		指導担当者名	全教員	
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	こども保育科1年 幼稚園教諭併修コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	4単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	実習に向けての技術向上を図る。				
評価方法 評価基準	実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	配布資料				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	指導計画案の作成	部分実習の指導計画案の作成		
	18	指導計画案の作成・実演	部分実習の指導計画案の作成・ブレ実習		
	19	指導計画案の作成・実演	部分実習の指導計画案の作成・ブレ実習		
	20	指導計画案の作成	部分実習の指導計画案の作成		
	21	指導計画案の作成・実演	部分実習の指導計画案の作成・ブレ実習		
	22	指導計画案の作成・実演	部分実習の指導計画案の作成・ブレ実習		
	23	指導計画案の作成	部分実習の指導計画案の作成		
	24	指導計画案の作成・実演	部分実習の指導計画案の作成・ブレ実習		
	25	指導計画案の作成・実演	部分実習の指導計画案の作成・ブレ実習		
	26	指導計画案の作成	責任実習の指導計画案の作成		
	27	指導計画案の作成	責任実習の指導計画案の作成		
	28	指導計画案の作成・実演	責任実習の指導計画案の作成・ブレ実習		
	29	指導計画案の作成	責任実習の指導計画案の作成		
	30	指導計画案の作成	責任実習の指導計画案の作成		
	31	指導計画案の作成・実演	責任実習の指導計画案の作成・ブレ実習		
	32				
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	保育研究Ⅳ		指導担当者名	全教員	
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	2単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	実習に向けての技術向上を図る。				
評価方法 評価基準	出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	授業時に適宜に参考資料を配布				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授 業 計 画 前 期	1	実習準備物の製作	保育教材の製作		
	2	実習準備物の製作	保育教材の製作		
	3	実習準備物の製作	保育教材の製作		
	4	実習準備物の製作	保育教材の製作		
	5	実習準備物の製作	保育教材の製作		
	6	実習準備物の製作	保育教材の製作		
	7	指導案作成	基本的知識の確認		
	8	指導案作成	朝の集まりの指導案作成		
	9	指導案作成	食事の時間の指導案作成		
	10	指導案作成	おやつの時間の指導案作成		
	11	指導案作成	帰りの集まりの指導案作成		
	12	指導案作成	主活動の考案		
	13	指導案作成	主活動の指導案作成		
	14	指導案作成	主活動の指導案作成		
	15	指導案作成	振り返り		
	16				
履修上の留意点					
出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名		PCスキルアップ講座Ⅱ		指導担当者名		井口 義基	
実務経験						実務経験:	
開講時期		後期		対象学科学年		こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法		講義:		演習:○		実習:	
実技:							
単位数		1単位		週時間数		1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標		・入力スピードの正確性の練習。 ・検定範囲を中心にスライド作成やアニメーションを学ぶ。 ・全体的なレイアウトを整え、文章・グラフ・パワーポイントの作成を学ぶ。 ・検定試験に準じた過去問題を解ける力をつける。					
評価方法 評価基準		学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。					
使用教材		よくわかるWord2021、Excel2021、PowerPoint2021 FOM出版					
授業外学習の方法		授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等			
授業計画 後期	17	練習問題1.2		Word PowerPoint			
	18	練習問題3.4		PowerPoint Excel			
	19	練習問題5.6		PowerPoint Excel			
	20	練習問題7.8		Excel			
	21	練習問題9.10		PowerPoint Excel			
	22	練習問題11.12		Word PowerPoint			
	23	練習問題13.14		Word PowerPoint			
	24	模擬問題		USBメモリ保存・検定に向けた計測(45分)			
	25						
	26						
	27						
	28						
	29						
	30						
	31						
	32						
履修上の留意点 出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。							

授業計画(シラバス)

科目名	ピアノレッスンⅡ		指導担当者名	二階堂 恵美子	
実務経験	ピアノ教室で講師として従事			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	2単位		週時間数	1コマ(90分／コマ)	
学習到達目標	音楽に関する基本的な知識と技術を身につけ、それらに関する様々な活動を通して、楽しさや喜びを体験し、保育の中で取り扱う教材やそれらを展開するために必要な要因とを結びつけ、前年度に習得した「こどもと音楽Ⅰ」の教授内容を基盤に、より高度な目標を持って、授業を展開し、それらをさらに探求することにより、保育の現場における音楽表現力、指導援助力を深めていき、適応力のある指導者を養成することを目的とする				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	やさしいアレンジで楽しく弾ける！保育のピアノ伴奏12か月人気150曲 (株)西東社				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	オリエンテーション	授業内容、課題選択、学習方法、基礎知識などの説明		
	18	課題曲のレッスン	課題曲の進度・完成度の確認		
	19	課題曲のレッスン	課題曲の進度・完成度の確認		
	20	課題曲のレッスン	課題曲の進度・完成度の確認		
	21	課題曲のレッスン	課題曲の進度・完成度の確認		
	22	課題曲のレッスン	課題曲の進度・完成度の確認		
	23	課題曲のレッスン	課題曲の進度・完成度の確認		
	24	課題曲のレッスン	課題曲の進度・完成度の確認		
	25	課題曲のレッスン	課題曲の進度・完成度の確認		
	26	課題曲のレッスン	課題曲の進度・完成度の確認		
	27	課題曲のレッスン	課題曲の進度・完成度の確認		
	28	課題曲のレッスン	課題曲の進度・完成度の確認		
	29	課題曲のレッスン	課題曲の進度・完成度の確認		
	30	課題曲のレッスン	課題曲の進度・完成度の確認		
	31	課題曲のレッスン	課題曲の進度・完成度の確認		
	32				
履修上の留意点 出席率が2／3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	卒業研究Ⅰ		指導担当者名	全教員
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:
単位数	4単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	・子どもの成長発達に欠かせない自然環境・地域社会・児童文化など、教育と文化の両局面から学生自身が最も興味の深い課題を設定し、研究する。 ・研究を通してこども理解と保育者の資質を向上させる。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	各自研究テーマに合わせた文献等			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	卒業研究について 研究・調査方法の説明	
	2	研究テーマについて	研究テーマ・内容の検討と準備	
	3		研究テーマ・内容の検討と準備	
	4		研究テーマ・内容の検討と準備	
	5	研究・調査	研究・調査実施	
	6		研究・調査実施	
	7		研究・調査実施	
	8		研究・調査実施	
	9		研究・調査実施	
	10	中間報告会	研究・調査経過確認	
	11		研究・調査経過確認	
	12	研究・調査	研究・調査実施	
	13		研究・調査実施	
	14		研究・調査実施	
	15		研究・調査実施	
	16			
履修上の留意点 出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	卒業研究Ⅰ		指導担当者名	全教員
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	こども保育科2年 幼稚園教諭併修コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:
単位数	4単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	・子どもの成長発達に欠かせない自然環境・地域社会・児童文化など、教育と文化の両局面から学生自身が最も興味の深い課題を設定し、研究する。 ・研究を通してこども理解と保育者の資質を向上させる。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	各自研究テーマに合わせた文献等			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	17	中間報告会	研究・調査経過確認	
	18		研究・調査経過確認	
	19	まとめ	研究・調査のまとめ	
	20		研究・調査のまとめ	
	21		研究・調査のまとめ	
	22		研究・調査のまとめ	
	23		研究・調査のまとめ	
	24		研究・調査のまとめ	
	25		研究・調査のまとめ	
	26		研究・調査のまとめ	
	27		研究・調査のまとめ	
	28	発表	卒業研究発表	
	29		卒業研究発表	
	30		卒業研究発表	
	31		卒業研究発表	
	32			
履修上の留意点 出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	卒業研究Ⅱ		指導担当者名	全教員
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:
単位数	4単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	・子どもの成長発達に欠かせない自然環境・地域社会・児童文化など、教育と文化の両局面から学生自身が最も興味の深い課題を設定し、研究する。 ・研究を通してこども理解と保育者の資質を向上させる。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	各自研究テーマに合わせた文献等			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	卒業研究について 研究・調査方法の説明	
	2	研究テーマについて	研究テーマ・内容の検討と準備	
	3		研究テーマ・内容の検討と準備	
	4		研究テーマ・内容の検討と準備	
	5	研究・調査	研究・調査実施	
	6		研究・調査実施	
	7		研究・調査実施	
	8		研究・調査実施	
	9		研究・調査実施	
	10	中間報告会	研究・調査経過確認	
	11		研究・調査経過確認	
	12	研究・調査	研究・調査実施	
	13		研究・調査実施	
	14		研究・調査実施	
	15		研究・調査実施	
	16			
履修上の留意点 出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	卒業研究Ⅱ		指導担当者名	全教員
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り			実務経験：
開講時期	通年	対象学科学年	こども保育科2年 幼稚園教諭併修コース	
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：
単位数	4単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	・子どもの成長発達に欠かせない自然環境・地域社会・児童文化など、教育と文化の両局面から学生自身が最も興味の深い課題を設定し、研究する。 ・研究を通してこども理解と保育者の資質を向上させる。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	各自研究テーマに合わせた文献等			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	17	中間報告会	研究・調査経過確認	
	18		研究・調査経過確認	
	19	まとめ	研究・調査のまとめ	
	20		研究・調査のまとめ	
	21		研究・調査のまとめ	
	22		研究・調査のまとめ	
	23		研究・調査のまとめ	
	24		研究・調査のまとめ	
	25		研究・調査のまとめ	
	26		研究・調査のまとめ	
	27		研究・調査のまとめ	
	28	発表	卒業研究発表	
	29		卒業研究発表	
	30		卒業研究発表	
	31		卒業研究発表	
	32			
履修上の留意点 出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	実践ゼミⅡ		指導担当者名	全教員
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り			実務経験:
開講時期	通年		対象学科学年	こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
単位数	2単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	・保育実習の意義や目的・実習姿勢について理解する ・保育実習の計画や記録が記述できるようにする ・保育教材の研究をし指導計画案や実習時に反映させることができる ・実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	授業時に適宜に参考資料を配布			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 通年		保育施設での実習を10日間で80時間実施する。実習項目と内容は以下の通りである。又は54コマ分の演習を行う。		
		オリエンテーション	実習の意義	
		保育実習の総合的な理解□	専門性と職業倫理についての理解□	
		保育実習の総合的な理解□	子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解□	
		保育実践力の育成□	部分実習の指導計画の立案・準備□	
		保育実践力の育成□	1日実習の指導計画の立案・準備□	
		保育実践力の育成□	指導案の発表□	
		実習後の学び□	グループワーク、報告会□	
		全体総括□	今後の自己課題の明確化	
	履修上の留意点			
出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	特別研究Ⅱ		指導担当者名	全教員
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
単位数	4単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	・子どもの成長発達に欠かせない自然環境・地域社会・児童文化など、教育と文化の両局面から学生自身が最も興味の深い課題を設定し、研究する。 ・研究を通してこども理解と保育者の資質を向上させる。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	資料配布			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授 業 計 画 前 期	1	オリエンテーション	就職について	
	2	就職について	就職の目標を立案	
	3		就職活動の準備、自分自身について知る	
	4		就職活動の準備、履歴書作成 他	
	5		就職活動の準備、履歴書作成 他	
	6		就職活動の準備、履歴書作成 他	
	7		就職活動の準備、履歴書作成 他	
	8		就職先のリサーチ	
	9		就職先のリサーチ	
	10		就職先のリサーチ	
	11		面接練習(グループ毎)	
	12		面接練習(グループ毎)	
	13		面接練習(グループ毎)	
	14		面接練習(グループ毎)	
	15		面接練習(グループ毎)	
	16		面接練習(グループ毎)	
履修上の留意点 出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	特別研究Ⅱ		指導担当者名	全教員
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年		こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
単位数	4単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	・子どもの成長発達に欠かせない自然環境・地域社会・児童文化など、教育と文化の両局面から学生自身が最も興味の深い課題を設定し、研究する。 ・研究を通してこども理解と保育者の資質を向上させる。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	資料配布			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授 業 計 画 後 期	17	中間報告会	面接練習(個人)	
	18		面接練習(個人)	
	19	まとめ	面接練習(個人)	
	20		面接練習(個人)	
	21		面接練習(個人)	
	22		面接練習(個人)	
	23		面接練習(個人)	
	24		面接練習(個人)	
	25		面接練習(個人)	
	26		面接練習(個人)	
	27		面接練習(個人)	
	28		面接練習(個人)	
	29		面接練習(個人)	
	30		面接練習(個人)	
	31	発表	就職報告会	
	32		就職報告会	
履修上の留意点 出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	教育実習指導		指導担当者名	添田 美華	
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	1単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	・グループ討議をして振り返り、保育者としての知識、技術を習得する ・部分実習、責任実習に必要な指導案を立案したり、教材研究を行い、実習における自己課題を明確にする				
評価方法 評価基準	実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	実習の記録と指導案 ひかりのくに				
授業外学習 の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	教育実習目的と概要	教育実習の意義と目的について		
	2	教育実習の総合的な理解	専門性と職業倫理についての理解		
	3	教育実習の総合的な理解	子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解		
	4	保育実践力の育成	部分実習の指導計画の立案・準備		
	5	保育実践力の育成	1日実習の指導計画の立案・準備		
	6	保育実践力の育成	指導案の発表		
	7	実習後の学び	グループワーク、報告会		
	8	全体総括	今後の自己課題の明確化		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
履修上の留意点					
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名		教育実習Ⅰ		指導担当者名		添田 美華		
実務経験		児童福祉施設で保育士として従事					実務経験:	有
開講時期		前期		対象学科学年		こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース		
授業方法		講義:		演習:		実習:○		実技:
単位数		2単位		週時間数		40時間		
学習到達目標		・教員となるための心構えを自覚し基礎的な知識や技術を修得している。 ・求められる教員としての資質について理解し、教員の役割を自覚する。 ・これまで修得してきた技術を子どもたちの前で実践し、計画を立て一日の活動を運営することができる。						
評価方法 評価基準		実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。						
使用教材		必要に応じて資料配布						
授業外学習の方法		授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等			
授業計画 前期		幼稚園や認定こども園での実習を20日間で160時間実施する。実習項目と内容は以下の通りである。						
		オリエンテーション 教育実習の総合的な理解□ 教育実習の総合的な理解□ 教育実践力の育成□ 教育実践力の育成□ 教育実践力の育成□ 実習後の学び□ 全体総括□			教育実習の意義 専門性と職業倫理についての理解□ 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解□ 部分実習の指導計画の立案・準備□ 1日実習の指導計画の立案・準備□ 指導案の発表□ グループワーク、報告会□ 今後の自己課題の明確化			
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。								

授業計画(シラバス)

科目名	教育実習Ⅱ		指導担当者名	添田 美華
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事			実務経験：有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科2年 幼稚園教諭・短大コース	
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：
単位数	2単位	週時間数	40時間	
学習到達目標	・教員となるための心構えを自覚し基礎的な知識や技術を修得している。 ・求められる教員としての資質について理解し、教員の役割を自覚する。 ・これまで修得してきた技術を子どもたちの前で実践し、計画を立て一日の活動を運営することができる。			
評価方法 評価基準	実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	必要に応じて資料配布			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期		幼稚園や認定こども園での実習を20日間で160時間実施する。実習項目と内容は以下の通りである。		
		オリエンテーション 教育実習の総合的な理解□ 教育実習の総合的な理解□ 教育実践力の育成□ 教育実践力の育成□ 教育実践力の育成□ 実習後の学び□ 全体総括□	教育実習の意義 専門性と職業倫理についての理解□ 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解□ 部分実習の指導計画の立案・準備□ 1日実習の指導計画の立案・準備□ 指導案の発表□ グループワーク、報告会□ 今後の自己課題の明確化	

履修上の留意点
出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。